

**IBM WebSphere Information Integrator
OmniFind Edition**



エンタープライズ・サーチ インストール・ガイド

バージョン 8.3

**IBM WebSphere Information Integrator
OmniFind Edition**



エンタープライズ・サーチ インストール・ガイド

バージョン 8.3

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書には、IBM の専有情報が含まれています。その情報は、使用許諾条件に基づき提供され、著作権により保護されています。本書に記載される情報には、いかなる製品の保証も含まれていません。また、本書で提供されるいかなる記述も、製品保証として解釈すべきではありません。

IBM の資料は、オンラインまたは最寄りの事業所の IBM 担当員を通じて注文できます。

- オンラインで資料を注文する場合は、IBM Publications Center (www.ibm.com/shop/publications/order) にアクセスしてください。
- 最寄りの IBM 担当員をお探しになる場合は、IBM Directory of Worldwide Contacts (www.ibm.com/planetwide) にアクセスしてください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： GC18-9282-02
IBM WebSphere Information Integrator
OmniFind Edition
Installation Guide for Enterprise Search
Version 8.3

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.12

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004, 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

目次

「エンタープライズ・サーチ インストー ル・ガイド」について v	第 12 章 WebSphere Information Integrator Content Edition のインスト ール 43
第 1 章 必要なソフトウェアとサポートさ れるデータ・ソース 1	第 13 章 AIX、Linux、Solaris での WebSphere Application Server 6.0 リ フレッシュパック 2 のインストール . . . 45
ハードウェア要件とディスク・スペース所要量 . . . 8	第 14 章 Windows での WebSphere Application Server 6.0 リフレッシュパ ック 2 のインストール 47
第 2 章 エンタープライズ・サーチ・イン ストール用のオペレーティング・システム の準備 11	第 15 章 WebSphere Application Server Network Deployment バージョ ン 5.1.1 のフィックスパックのインスト ール 49
第 3 章 インストール・ディレクトリーと データ・ディレクトリー 13	第 16 章 ファースト・ステップ・プログ ラムの開始 51
第 4 章 エンタープライズ・サーチ管理者 ユーザー ID とパスワード 15	第 17 章 AIX、Linux、Solaris でのエン タープライズ・サーチの開始 53
第 5 章 インストール方法: グラフィッ ク・モード、サイレント・モード、テキス ト・モード 17	第 18 章 Windows でのエンタープライ ズ・サーチの開始 55
第 6 章 サイレント・インストールの応答 ファイルのセットアップ 19	第 19 章 インフォメーション・センター の開始と停止 57
第 7 章 インフォメーション・センターの インストールの概要 21	第 20 章 AIX、Linux、Solaris システム からの WebSphere II OmniFind Edition の除去 59
第 8 章 シングル・サーバー・インストー ルの概要 23	第 21 章 Windows システムからの WebSphere II OmniFind Edition の除 去 61
WebSphere II OmniFind Edition のシングル・サーバ ー・インストール 24	第 22 章 インストール情報フォーム . . 63
第 9 章 マルチサーバー・インストールの 概要 27	エンタープライズ・サーチの資料 67
クローラー・コンポーネントのインストール . . . 31	WebSphere Information Integration に 関する情報の入手 69
検索コンポーネントのインストール 33	IBM と連絡を取る 71
索引コンポーネントのインストール 35	商標 73
第 10 章 AIX、Linux、Solaris における リモート・サーバーでの DB2 Universal Database のセットアップ 39	
第 11 章 Windows におけるリモート・ サーバーでの DB2 Universal Database のセットアップ 41	

索引 79

「エンタープライズ・サーチ インストール・ガイド」について

本書は、WebSphere® Information Integrator OmniFind™ Edition インストール時にご利用ください。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を使用することによって、自社のデータ全般の検索を利用者に提供できるようになります。このテクノロジーは、エンタープライズ・サーチと呼ばれます。エンタープライズ・サーチ・コンポーネントは、IBM® WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールする際に、インストールされます。CD ラベルや特定の製品コンポーネントに言及する場合を除き、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition の資料では『エンタープライズ・サーチ』という用語が使用されています。

本書には、DB2 Universal Database™ 製品、または WebSphere Application Server 製品のインストール方法に関する固有の情報は記載されていません。各製品のインストール情報については、その製品の資料を参照してください。

本書の対象読者

エンタープライズ・サーチ・コンポーネントを 1 つ以上のサーバーにインストールする場合は、本書をお読みください。本書の読者には、ご使用のオペレーティング・システムを構成する方法に関する知識があり、システム管理者の権限および特権があることが必要です。DB2 Universal Database および WebSphere Application Server をインストールする前に、それぞれの製品の資料を必ずお読みください。これらの製品は、エンタープライズ・サーチの前提条件となる製品です。

第 1 章 必要なソフトウェアとサポートされるデータ・ソース

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールする前に、必要なソフトウェア、ハードウェア、サポートされるオペレーティング・システム、およびデータ・ソースに必要なソフトウェアがあるか確認してください。

サポートされるオペレーティング・システム

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition は、以下のオペレーティング・システムでサポートされます。

IBM AIX 5L™ (32 ビットおよび 64 ビット・システム)

- 5.2 (Maintenance Level 4 および August 2004 C++ Runtime for AIX® PTF が必要)
- 5.2 用の POWER™ 4 および POWER 5
- 5.3 (Maintenance Level 1 および August 2004 C++ Runtime for AIX PTF が必要)
- 5.3 用の POWER 4 および POWER 5

Linux®

- Novell SuSE Linux Enterprise Server 8 with Service Pack 3 (UnitedLinux SP3)、with libstdc++3.2.2-38
- Novell SuSE Linux Enterprise Server 9 with Service Pack 1 (UnitedLinux SP1)、with libstdc++-3.3.3-43.28
- Red Hat Enterprise Linux Advanced Server バージョン 3.0 Update 2 kernel 2.4.21-9.ELsmp (libstdc++3.2.3-34 が必要)
- Red Hat Enterprise Linux Advance Server バージョン 4.0 kernel 2.6.9-11.ELsmp (compat-libstdc++-33-3.2.3-47.3 が必要)
- SuSE Linux Enterprise Server 8 with Service Pack 3 (UnitedLinux SP3) kernel 2.4.21-203 (libstdc++3.2.2-38 が必要)
- SuSE Linux Enterprise Server 9 with Service Pack 1 (UnitedLinux SP1) kernel 2.6.5-7.97-bigsm (libstdc++-3.3.3-43.28 が必要)

Microsoft® Windows®

- Microsoft Windows 2000 Advanced Server with Service Pack 4
- Microsoft Windows 2003 Enterprise Edition with Service Pack 1

Solaris オペレーティング環境

Solaris 9 kernel SunOS 5.9 Generic 112233-12 Mar 2004

AIX PTF およびその他のフィックス (保守レベル) をダウンロードするには、次のようにします。

1. IBM AIX 製品サポート・サイト : August 2004 C++ Runtime for AIX PTF にアクセスします。
2. xlc.rte.60.aug2004.ptf.tar.Z ファイルをダウンロードします。

3. Web ページの説明に従って PTF をインストールします。
4. ご使用のバージョンの AIX に該当する保守レベルを適用します。AIX フィックスをダウンロードするには、以下の Web サイトにアクセスしてください:
www.ibm.com/servers/eserver/support/pseries/aixfixes.html。
5. Web ページの説明に従って、保守レベル (フィックス) をインストールします。

エンタープライズ・サーチを AIX で実行する場合は、EXTSHM=ON に設定します。詳細な手順説明については、www-1.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21079674 にある Web サイトを参照してください。WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・プログラムは、DB2 Universal Database プロファイル変数の環境変数 DB2ENVLIST=EXTSHM を設定し、エンタープライズ・サーチ管理者ユーザーは、環境変数 EXTSHM=ON を設定します。別の DB2 Universal Database ユーザー (db2instance ユーザーなど) に DB2 Universal Database の開始を許可する場合は、そのユーザーに環境変数 EXTSHM=ON を設定します。この環境変数設定は、一部のエンタープライズ・サーチ・クローラー (Domino[®] クローラー、DB2[®] クローラー、Content Manager クローラーなど) を実行する際に必要です。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition に必要なソフトウェア

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・プログラムは、必要なソフトウェアをインストールします。インストール・プログラムを使用せずに、必要なソフトウェアを手動でインストールしたり、必要なソフトウェアの既存のインストールを使用することもできます。エンタープライズ・サーチには、以下のソフトウェアが必要です。

IBM DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.2 (8.1 にフィックスパック 7 を適用)

収集されたデータのリポジトリとして利用されます。

IBM DB2 Run-Time Client バージョン 8.2 (8.1 にフィックスパック 7 を適用)

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をマルチサーバーにインストールする場合に必要です。

IBM WebSphere Application Server Network Deployment バージョン 5.1.1 および 5.1.1.3 または IBM WebSphere Application Server バージョン 6.0.2

Web アプリケーション・サーバーと IBM HTTP サーバーが含まれています。両方のサーバーがインストールされている必要があります。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のオプションのソフトウェア

IBM WebSphere Information Integrator Information Center バージョン 8.3 は、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition および WebSphere Information Integrator Content Edition の情報を提供します。WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・プログラムは、製品インストールの一部として、インフォメーション・センターを自動的にインストールします。インストール・プログラムを使用してインフォメーション・センターをインストールした場合、ヘルプ・トピックをクリックすると、インフォメーション・センターをホストする IBM Web サイトに接続されます。インフォメーション・センターには PDF ファイルはありません。

データ・ソースに必要なソフトウェア

データ・ソースに必要なソフトウェアは、手動でインストールできますが、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・プログラムを使用すると、必要なソフトウェアのほとんどが、製品インストールの一部として自動的にインストールされます。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のソフトウェア要件およびサポートされるデータ・ソースの現行情報は、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition System Requirements を参照してください。

イベント・パブリッシングを使用して、Lotus® Domino または Notes® データベース、DB2 Content Manager データベース、フェデレーテッド・リレーショナル・データベース、WebSphere Information Integrator Content Edition ソース、または DB2 Universal Database をクロールするには、これらの製品の以下のバージョンをインストールする必要があります。

IBM Lotus Domino Server 6.0.2 以降 (Linux、AIX、Solaris 版)

このソフトウェアは、Lotus Notes® または Domino ソース、Domino Document Manager 文書、QuickPlace® 文書からデータを収集する場合に必要です。TCP/IP を使用した名前とアドレスの関係の解決のために、Notes リモート・プロシージャ・プロトコル (NRPC) を使用する Notes クローラーは、Domino ライブラリーを Lotus Notes クライアントとして使用します。これらのライブラリーは、エンタープライズ・サーチ・クローラー・サーバーに Lotus Domino Server をインストールすることによって、インストールされます。Notes クローラーを Domino ライブラリーと連動させるには、Domino ライブラリーのインストール後に、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition が提供するセットアップ・スクリプトをクローラー・サーバーで実行してください。Domino Native Security を使用する場合は、サポートされているすべてのオペレーティング・システムのクローラー・サーバーで Lotus Domino 6.0.2 CF2 以降をサーバーとしてインストールし、構成してください。

IBM DB2 Information Integrator for Content バージョン 8.2 およびバージョン 8.3 (Windows および AIX 版)、または IBM DB2 Content Manager Toolkit バージョン 8.2 (Linux 版)

AIX および Windows 上のエンタープライズ・サーチでは、Content Manager クローラーは、Java™ connector for Content Manager バージョン 8 を使用して DB2 Content Manager サーバーにアクセスします。このコネクタは、IBM DB2 Information Integrator for Content バージョン 8.2 (Windows および AIX 版) をクローラー・サーバーにインストールすることによって、インストールされます。Content Manager クローラーを DB2 Content Manager と連動させるには、コネクタのインストール後に、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition が提供するセットアップ・スクリプトをクローラー・サーバーで実行してください。

Linux 上のエンタープライズ・サーチでは、Content Manager クローラーは、Java™ connector for Content Manager バージョン 8 を使用して DB2 Content Manager サーバーにアクセスします。このコネクタは、クローラー・サーバーに IBM DB2 Content Manager Linux Toolkit バージョン 8.2

をインストールすることによって、インストールされます。Content Manager クローラーを DB2 Content Manager と連動させるには、コネクタのインストール後に、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition が提供するセットアップ・スクリプトをクローラー・サーバーで実行してください。

WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3 コネクター

Content Edition クローラーは、WebSphere Information Integrator Content Edition の Java ライブラリーを Java クライアントとして使用します。Content Edition クローラーを WebSphere Information Integrator Content Edition と連動させるには、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition が提供するセットアップ・スクリプトをクローラー・サーバーで実行してください。セットアップ・スクリプトは、Content Edition クローラーがクローラー・リポジトリへのアクセスにサーバー・モードを使用する場合にのみ必要です。

IBM DB2 Information Integrator バージョン 8.2 以降

DB2 Information Integrator バージョン 8.2 は、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition と共に出荷されています。DB2 Information Integrator を使用して、DB2 Universal Database for z/OS[®]、IBM Informix[®] IDS、Oracle 9i および Oracle 10g、IBM DB2 Universal Database for iSeries[™]、Microsoft SQL Server 2000、Sybase バージョン 11.9.2 およびバージョン 12.0 およびバージョン 12.5 以降のリレーショナル・データベースをクローラーすることができます。

WebSphere MQ バージョン 5.3 Java メッセージ・ライブラリー

DB2 Information Integrator Event Publisher Edition のイベント・パブリッシング機能を使用して DB2 Universal Database データベースをクローラーする場合、DB2 クローラーには WebSphere MQ の Java メッセージング・ライブラリーが必要になります。これらのライブラリーは、WebSphere MQ インストーラーからインストールできます。イベント・パブリッシングを使用する DB2 クローラーをライブラリーと連動させるには、WebSphere MQ ライブラリーのインストール後に、クローラー・サーバーでセットアップ・スクリプトを実行してください。DB2 クローラーが DB2 データベースのクローラーにイベント・パブリッシングを使用しない場合、WebSphere MQ ライブラリーは不要です。

必要な Java レベル

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition では、以下のレベルの Java が必要です。

IBM Software Development Kit for Java 1.4.x (SDK for Java 1.5 はサポートされていません)

SDK for Java は、エンタープライズ・サーチのアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を使用して作成される Java 検索アプリケーションをコンパイルする際に必要です。SDK for Java は、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストールには必要ありません。SDK for Java 1.4.x を使用して、エンタープライズ・サーチ

ESSearchApplication サンプル・アプリケーション、検索および索引 API アプリケーション、データ・リスナー・アプリケーションおよびサンプルをコンパイルできます。

ES_INSTALL_ROOT/samples ディレクトリー内にある ESearchApplication サンプル・アプリケーションは、JRE バージョン 1.4 環境で実行する必要があります。WebSphere Application Server と WebSphere Portal は、いずれも JRE バージョン 1.4 を提供します。

サポートされるデータ・ソース

エンタープライズ・サーチを使用して、以下のデータ・ソースから検索可能なコレクションを作成することができます。これらのデータ・ソースには、追加のソフトウェアが必要なものもあります。

Documentum 4.2.x、5.2.5 および 5.3

Content Edition クローラー (WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3) を使用してアクセスされます。

FileNet CS 5.3 および 5.4

Content Edition クローラー (WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3) を使用してアクセスされます。

FileNet P8 CM 3.0 および 3.5

Content Edition クローラー (WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3) を使用してアクセスされます。

Hummingbird® DM 5.1.0.5 with SR4

Content Edition クローラー (WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3) を使用してアクセスされます。

Open Text Livelink Enterprise Server 9.2 および 9.5

Content Edition クローラー (WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3) を使用してアクセスされます。Content Edition クローラーを使用して WebSphere Information Integrator Content Edition を介して Opentext Livelink Enterprise Server 9.2 にアクセスするには、OpenText Livelink のパッチとサーバー・パラメーターの変更が必要です。最新の更新情報およびパッチについては、WebSphere Information Integrator Content Edition のサポート Web サイト (www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/supportcontent.html) を参照してください。

IBM DB2 Content Manager バージョン 8.2 またはバージョン 8.3

Content Manager クローラーを使用してアクセスされます。

IBM Lotus Domino Document Manager バージョン 6.5.1 (以前は、Domino.Doc®)

Domino Document Manager クローラーを使用してアクセスされます。

Domino Document Manager クローラーが NRPC (Notes リモート・プロシージャ・コール) を使用する場合、Lotus Domino Server 6.0.2 CF2 以降 (AIX、Linux、Solaris) または Lotus Notes 6.0.2 CF2 (Windows) をクローラー・サーバーにインストールする必要があります。また、ご使用のオペレーティング・システムに該当するセットアップ・スクリプトを実行する必要があります。AIX、Linux、Solaris の場合は `escrnote.sh`、Windows の場合は `escrnote.vbs` です。

IBM Lotus Domino バージョン 5.0 以降およびバージョン 6.0 以降

Notes/Domino クローラーを使用してアクセスされる場合は、Lotus Domino Server 5.0.9a 以降がサポートされます。ネイティブ・セキュリティ機能を使用する場合は、Lotus Domino Server 6.0.2 CF2 以降がサポートされます。Notes/Domino クローラーが Notes リモート・プロシージャー・コール (NRPC) を使用する場合は、Lotus Domino Server 6.0.2 CF2 以降 (AIX、Linux、Solaris) または Lotus Notes 6.0.2 CF2 (Windows) をクローラー・サーバーにインストールする必要があります。また、ご使用のオペレーティング・システムに該当するセットアップ・スクリプトを実行する必要があります。AIX、Linux、Solaris の場合は `escrnote.sh`、Windows の場合は `escrnote.vbs` です。

IBM Lotus QuickPlace バージョン 6.5.1 (以前の名称は、Team Workplace™ および Quickplace)

QuickPlace クローラーを使用してアクセスされます。QuickPlace クローラーが Notes リモート・プロシージャー・コール (NRPC) を使用する場合は、Lotus Domino Server 6.0.2 CF2 以降 (AIX、Linux、Solaris) をクローラー・サーバーにインストールする必要があります。また、ご使用のオペレーティング・システムに該当するセットアップ・スクリプトを実行する必要があります。AIX、Linux、Solaris の場合は `escrnote.sh` スクリプトを使用します。Windows の場合は `escrnote.vbs` スクリプトを使用します。

IBM DB2 Universal Database for iSeries バージョン 5.3

DB2 クローラーを使用し、DB2 Information Integrator バージョン 8.2 以降を通じてアクセスされます。

IBM DB2 Universal Database for Linux, UNIX®, and Windows バージョン 8.1 およびバージョン 8.2

DB2 クローラーを使用してアクセスされます。

IBM DB2 Universal Database for z/OS バージョン 7 以降およびバージョン 8 以降

DB2 クローラーを使用し、DB2 Information Integrator バージョン 8.2 以降を通じてアクセスされます。

IBM Informix IDS バージョン 9 以降

DB2 クローラーを使用し、DB2 Information Integrator バージョン 8.2 以降を通じてアクセスされます。

IBM WebSphere Portal バージョン 5.1.1 Web サイト

WebSphere Portal クローラーを使用してアクセスされます。WebSphere Portal クローラーは、WebSphere Portal バージョン 5.1 で作成されたサイトをクローリングできます。

IBM WebSphere Portal Document Manager バージョン 5.1.0.1

Content Edition クローラー (WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3) を使用してアクセスされます。

Informix IDS バージョン 9 以降

DB2 クローラーを使用し、DB2 Information Integrator バージョン 8.2 以降を通じてアクセスされます。

Microsoft SQL Server 2000

DB2 クローラーを使用し、DB2 Information Integrator バージョン 8.2 以降を通じてアクセスされます。

Microsoft Exchange Server 2000 または 2003

Exchange Server クローラーを使用してアクセスされます。

Oracle 9i および Oracle 10g

DB2 クローラーを使用し、DB2 Information Integrator バージョン 8.2 以降を通じてアクセスされます。

Sybase バージョン 11.9.2、12.0、12.5 以降

DB2 クローラーを使用し、DB2 Information Integrator バージョン 8.2 以降を通じてアクセスされます。

NewsGroup (NNTP)

Network News Transfer Protocol (NNTP) クローラーを通じてアクセスされます。

UNIX ファイル・システム

UNIX ファイル・システム・クローラーを通じてアクセスされます。

Windows ファイル・システム

Windows ファイル・システム・クローラーを通じてアクセスされます。

Web (HTTP または HTTPS)

Web クローラーを通じてアクセスされます。

IBM Workplace Web Content Manager バージョン 2.5 およびバージョン 5.1

Web クローラーを使用してアクセスされます。

関連概念

27 ページの『第 9 章 マルチサーバー・インストールの概要』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 4 つの分散サーバーにインストールすることができます。

関連タスク

Lotus Domino ソースをクロールする場合の UNIX でのクローラー・サーバーの構成

Lotus Domino ソースをクロールする場合の Windows でのクローラー・サーバーの構成

UNIX での WebSphere II Content Edition 用クローラー・サーバーの構成

Windows での WebSphere II Content Edition 用クローラー・サーバーの構成

24 ページの『WebSphere II OmniFind Edition のシングル・サーバー・インストール』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール・ランチパッドを使用して、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 1 つのサーバーにインストールします。

関連資料

8 ページの『ハードウェア要件とディスク・スペース所要量』

ハードウェア要件とディスク・スペース所要量は、ご使用のオペレーティング・システムとエンタープライズ・サーチの使用目的によって決まります。

11 ページの『第 2 章 エンタープライズ・サーチ・インストール用のオペレーティング・システムの準備』

オペレーティング・システムによっては、ディスク区画に割り振るスペース量など、固有の設定が必要なものがあります。前提ソフトウェアおよびエンタープ

ライズ・サーチ をインストールする前に、ご使用のオペレーティング・システムに、必要な パッケージ、修正、およびインストール要件で指定されている正しい保守レベルのパッチ がすべて組み込まれているか確認してください。

ハードウェア要件とディスク・スペース所要量

ハードウェア要件とディスク・スペース所要量は、ご使用のオペレーティング・システムとエンタープライズ・サーチの使用目的によって決まります。

ディスク・スペース所要量は、クロールする文書数、およびクロールするデータ・ソースのタイプによって大きく異なります。これらの要件は、定期的に索引を作成すること、つまり索引に新規文書が追加、除去、更新されることを前提としています。マルチサーバー構成の場合、増加していくスペース所要量は索引サーバー上に必要になります。 `ES_NODE_ROOT` ディレクトリーには、ご使用のシステムで最も多くのディスク・スペースが必要です。

エンタープライズ・サーチのハードウェア要件に関する最新情報は、 `Capacity Planner spreadsheet for WebSphere Information Integrator OmniFind Edition` を参照してください。

最小ハードウェア要件と最低限のディスク・スペース所要量を、シングル・サーバー構成とマルチサーバー構成に分けて説明します。

小規模インストール

シングル・サーバー構成

- 2 台以上のプロセッサー:
 - Intel® および AMD の場合 2.0 GHz 以上
 - RISC の場合 1.5 GHz 以上
- 6 GB の RAM (追加のアクティブ・コレクションごとに、1 - 2 GB の RAM を追加)
- 200 GB のディスク・スペース: 1 つ以上のコレクションの文書数が 1 000 000、平均文書サイズが 20 KB の場合

中規模インストール

4 サーバー構成

- 2 台以上のプロセッサー:
 - Intel および AMD の場合 2.0 GHz 以上
 - RISC の場合 1.5 GHz 以上
- 各サーバーに 6 GB の RAM
- 合計 2 TB のディスク・スペース: 1 つ以上のコレクションの文書数が 7 000 000、平均文書サイズが 20 KB の場合

大規模インストール

4 サーバー構成

- 4 台以上のプロセッサー:
 - Intel および AMD の場合 2.0 GHz 以上
 - RISC の場合 1.5 GHz 以上
- 各サーバーに 8 GB の RAM (Windows の場合、8 GB の RAM)

- 合計 6 TB のディスク・スペース: 1 つ以上のコレクションの文書数が 10 000 000、平均文書サイズが 20 KB の場合

関連資料

1 ページの『第 1 章 必要なソフトウェアとサポートされるデータ・ソース』
WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールする前に、必
要なソフトウェア、ハードウェア、サポートされるオペレーティング・システ
ム、およびデータ・ソースに必要なソフトウェアがあるか確認してください。

第 2 章 エンタープライズ・サーチ・インストール用のオペレーティング・システムの準備

オペレーティング・システムによっては、ディスク区画に割り振るスペース量など、固有の設定が必要なものがあります。前提ソフトウェアおよびエンタープライズ・サーチをインストールする前に、ご使用のオペレーティング・システムに、必要なパッケージ、修正、およびインストール要件で指定されている正しい保守レベルのパッチがすべて組み込まれているか確認してください。

マルチサーバー・インストールでは、エンタープライズ・サーチをファイアウォールが使用可能に設定されているオペレーティング・システムにインストールする場合、4つのエンタープライズ・サーチ・サーバー間で通信が行えるよう、ファイアウォール・ソフトウェアを使用不可に設定する必要があります。

シングル・サーバー・インストールおよびマルチサーバー・インストールでは、エンタープライズ・サーチがファイアウォールが使用可能に設定されているオペレーティング・システムにインストールされている場合、エンタープライズ・サーチ・クローラーは、トラステッド・ゾーンのデータのみクロールすることができます。

Red Hat Linux

GRUB ブート・ローダーが Red Hat Enterprise Linux AS-up (2.6.9-11 ELsmp) というカーネルの Linux を開始するようにしてください。Red Hat Linux のインストール中に、ブート・ローダーとして GRUB を選択しても、GRUB は正しいカーネル・レベルを使用しないことがあります。GRUB が正しいカーネル・レベルで開始するようにするには、`/etc/grub.conf` ファイルを編集します。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. `grub.conf` ファイルを編集して、`default=1` になっているか確認します。
3. 変更を保管して、エディターを終了します。
4. コンピューターを再始動します。

AIX

以下の値を `profile.env` ファイルおよびユーザー・プロファイル・ファイルに設定します。

- `profile.env`: `DB2ENVLIST='EXTSHM'`
- ユーザー・プロファイル: `export EXTSHM=ON`

関連資料

1 ページの『第 1 章 必要なソフトウェアとサポートされるデータ・ソース』WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールする前に、必要なソフトウェア、ハードウェア、サポートされるオペレーティング・システム、およびデータ・ソースに必要なソフトウェアがあるか確認してください。

第 3 章 インストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリー

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、インストール・プログラムは、インストール・ディレクトリー、データ・ディレクトリー、表スペース・ディレクトリーを作成します。

インストール・ディレクトリー

インストール・ディレクトリーには、システムの稼働中に変更されない実行可能ファイルおよびデフォルト・ファイルなどのファイルが含まれています。デフォルトの *ES_INSTALL_ROOT* ディレクトリーを変更することはできますが、マルチサーバー・インストールの場合は、すべてのサーバーに同じインストール・ディレクトリー・パスを使用してください。本書で、*ES_INSTALL_ROOT* はインストール・ディレクトリーを表します。

データ・ディレクトリー

データ・ディレクトリーには、システムが定期的に更新する構成ファイルおよびデータ・ファイルが含まれています。ご使用のシステム上で最大のファイル区画またはディスク・スペースを、データ・ディレクトリー専用にご覧ください。本書で、*ES_NODE_ROOT* は、サーバー上のデータ・ディレクトリーを表します。

表スペース・ディレクトリー

デフォルトで、クローラー・サーバー上のデータ・ディレクトリーに、表スペース・ディレクトリーがインストールされます。インストール時に、表スペースに別のロケーションを指定することができます。このディレクトリーは、大容量ディスク・スペースにアクセスする必要があります。

関連概念

27 ページの『第 9 章 マルチサーバー・インストールの概要』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 4 つの分散サーバーにインストールすることができます。

関連タスク

24 ページの『WebSphere II OmniFind Edition のシングル・サーバー・インストール』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール・ランチパッドを使用して、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 1 つのサーバーにインストールします。

第 4 章 エンタープライズ・サーチ管理者ユーザー ID とパスワード

エンタープライズ・サーチのユーザー ID とパスワードは、オペレーティング・システム上で有効なものでなければなりません。また、DB2 Universal Database にアクセスして構成する権限が必要です。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、既存のエンタープライズ・サーチ管理者ユーザー ID とパスワードを入力するか、またはインストール・プログラムで作成することができます。既存のユーザー ID とパスワードを使用する場合は、エンタープライズ・サーチ管理者が適切にシステムを実行できるように、インストール・プログラムが権限と特権を変更します。

エンタープライズ・サーチ管理者ユーザー ID とパスワードは、マルチサーバー・インストール環境では、各サーバー上で同一でなければなりません。

関連概念

27 ページの『第 9 章 マルチサーバー・インストールの概要』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 4 つの分散サーバーにインストールすることができます。

関連タスク

53 ページの『第 17 章 AIX、Linux、Solaris でのエンタープライズ・サーチの開始』

AIX、Linux、または Solaris システムに WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールした後、インストール・プログラムは、ユーザーに代わって前提ソフトウェアを開始します。ただし、これらのソフトウェア・コンポーネントが開始されない場合は、コマンドを入力して開始することができます。

55 ページの『第 18 章 Windows でのエンタープライズ・サーチの開始』

Windows に WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールした後、インストール・プログラムは、ユーザーに代わって前提ソフトウェアを開始するか、またはソフトウェア・コンポーネントをバックグラウンド・サービスとして開始します。これらのコンポーネントが開始されない (またはサービスが実行されていない) 場合は、手動で開始することができます。

24 ページの『WebSphere II OmniFind Edition のシングル・サーバー・インストール』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール・ランチパッドを使用して、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 1 つのサーバーにインストールします。

第 5 章 インストール方法: グラフィック・モード、サイレント・モード、テキスト・モード

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition は、グラフィック・モード、テキスト・モード、サイレント・モードでインストールすることができます。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・プログラムは、ユーザーに代わって大部分の前提ソフトウェアをインストールします。提供されている前提ソフトウェアをインストールするには、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition に組み込まれている CD を挿入します。

グラフィック・インストール

これは、標準的なインストール・オプションです。インストールを手動で行い、インストールをカスタマイズする場合は、このオプションを選択します。

UNIX グラフィック・インストール・プログラムを開始するには、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition CD をマウントして、実行可能ファイルを実行します。

Windows

グラフィック・インストール・プログラムを開始するには、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition CD を挿入します。

サイレント・インストール

このオプションを使用すると、テンプレート応答ファイルを編集してから、インストール・プログラムでシステムをインストールおよび構成して、エンタープライズ・サーチをインストールすることができます。応答ファイル・テンプレートは、CD のルート・ディレクトリにあります。サイレント・モード・インストールでは、以下のパラメーターを使用します。

```
-options response_file -silent
```

テキスト・モード・インストール

このオプションでは、コンソールからテキスト・モードでインストールを実行します。画面はテキストで表され、グラフィック・インストールと同じ情報のプロンプトが出されます。テキスト・モード・インストール・プログラムを開始するには、次のようにします。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition CD を挿入またはマウントして、実行可能ファイルを実行します。次の例は、Linux におけるテキスト・モードでのインストール・プログラムの開始方法を示しています。

```
./install-linux.bin -console
```

Windows からアクセス可能モードでインストールを実行することもできます。以下の実行可能ファイルをアクセス可能パラメーターを指定して実行します。このコマンドは、テキスト・モードでインストールを開始します：

```
install-win32_non_gui.exe -accessibility
```

関連概念

19 ページの『第 6 章 サイレント・インストールの応答ファイルのセットアップ』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をサイレント・インストールすることができます。例えば、インストールに立ち会えない場合やエンタープライズ・サーチを複数インストールする際にデフォルト・インストールを再使用できる場合などには、サイレント・インストールを選択します。サイレント・インストールは、応答ファイルを必要とする無人インストールです。

第 6 章 サイレント・インストールの応答ファイルのセットアップ

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をサイレント・インストールすることができます。例えば、インストールに立ち会えない場合やエンタープライズ・サーチを複数インストールする際にデフォルト・インストールを再使用できる場合などには、サイレント・インストールを選択します。サイレント・インストールは、応答ファイルを必要とする無人インストールです。

各応答ファイルには、必要なソフトウェアのインストール・オプションなども含めて、実施したいインストールのタイプに必要なオプションが含まれています。インストールを正常に行うために、テンプレート応答ファイル内の各オプションに記載されているコメントを読み、それぞれのオプションに指定する値を理解してください。応答ファイルに入力するすべての値は、二重引用符 " " で囲む必要があります。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition バージョン 8.3 に組み込まれているテンプレート応答ファイルには、新規あるいは変更されたオプションが多数含まれています。この製品の以前のバージョンで作成した既存の応答ファイルを使用して WebSphere Information Integrator OmniFind Edition バージョン 8.3 をインストールしないでください。

テンプレート応答ファイルは、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition バージョン 8.3 の製品 CD をドライブに挿入した後は、ルート・ディレクトリーに入っています。

次の例は、Linux におけるシングル・サーバー・インストールのサイレント・モードでのインストール・プログラムの実行方法を示しています。

```
./install-linux.bin -options ./linux_single_server.rsp -silent
```

シングル・サーバー・インストールのテンプレート応答ファイル

シングル・サーバー・インストールの場合、以下のいずれかのテンプレート応答ファイルを変更して、クローラー・サーバー、検索サーバー、索引サーバー、および前提ソフトウェアに関する情報を指定することができます。

AIX aix_single_server.rsp

Linux linux_single_server.rsp

Solaris solaris_single_server.rsp

Windows

win_single_server.rsp

マルチサーバー・インストールのテンプレート応答ファイル

マルチサーバー・インストールの場合、インストールする各インストール・コンポーネントごとに応答ファイルを作成します。以下のテンプレート応答ファイルを変更して、クローラー・サーバー、2つの検索サーバー、および索引サーバーのオプションを指定することができます。

Linux linux_index_server.rsp
linux_crawler_server.rsp
linux_search_server.rsp

AIX aix_index_server.rsp
aix_crawler_server.rsp
aix_search_server.rsp

Solaris solaris_index_server.rsp
solaris_crawler_server.rsp
solaris_search_server.rsp

Windows
win_index_server.rsp
win_crawler_server.rsp
win_search_server.rsp

関連概念

17 ページの『第 5 章 インストール方法: グラフィック・モード、サイレント・モード、テキスト・モード』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition は、グラフィック・モード、テキスト・モード、サイレント・モードでインストールすることができます。

第 7 章 インフォメーション・センターのインストールの概要

エンタープライズ・サーチおよびコンテンツ統合サーバーの資料は、IBM Web サイトまたはご使用のコンピューターでご覧になることができます。

ご使用のコンピューターで資料をご覧になる場合は、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストールでインフォメーション・センターを自動的にインストールすることもできますし、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール前にインフォメーション・センターを手動でインストールすることもできます。

インストール時に、WebSphere Information Integrator インフォメーション・センター CD をドライブに挿入するよう指示するプロンプトが出されます。

インフォメーション・センターをローカルにインストールしない場合は、「ヘルプ」をクリックすると、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにより、IBM Web サイトでホストされているインフォメーション・センターが自動的に開きます。

関連タスク

57 ページの『第 19 章 インフォメーション・センターの開始と停止』
WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターには、エンタープライズ・サーチおよびコンテンツ統合サーバーに関する資料が含まれています。

第 8 章 シングル・サーバー・インストールの概要

シングル・サーバー・インストールの場合は、すべての前提ソフトウェアと WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 1 つのサーバーにインストールします。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール・プログラムは、ソフトウェアを手動でインストールする場合やソフトウェアがすでにインストールされている場合を除いて、前提ソフトウェアをインストールします。

シングル・サーバーに WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールするには、ソフトウェアを以下の順序でインストールし、構成する必要があります。

1. DB2 Universal Database Enterprise Edition バージョン 8.2

DB2 Universal Database は、エンタープライズ・サーチ・サーバーまたはリモート・サーバーにインストールできます。

2. WebSphere Information Integrator Information Center バージョン 8.3

エンタープライズ・サーチ管理コンソールからインフォメーション・センターにアクセスするには、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール前またはインストール時に、インフォメーション・センターをインストールする必要があります。

3. オプション: DB2 Run-time Client バージョン 8.2 (リモート DB2 UDB サーバーを使用する場合にのみ必要)

4. WebSphere Application Server バージョン 6.0.2

WebSphere Application Server を手動でインストールする場合、WebSphere Application Server ベース、IBM HTTP Server、および WebSphere Application Server プラグイン・コンポーネントをインストールする必要があります。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・プログラムは、これら 3 つをすべて自動的にインストールします。

5. WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3 コネクタ

6. WebSphere Information Integrator OmniFind Edition バージョン 8.3 コンポーネント

その他すべての前提ソフトウェアは手動でインストールする必要があります。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール後、WebSphere Application Server のリフレッシュパックまたはフィックスパックをインストールできます。インストール・プログラムでは、リフレッシュパックやフィックスパックはインストールされません。

Lotus Notes データベースや DB2 Content Manager データベースのデータをクローリングする場合は、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を構成して、これらのデータ・ソースを接続する必要があります。

以下の図は、リモート・サーバーに DB2 Universal Database をインストールする場合にエンタープライズ・サーチ・サーバーにインストールされる前提ソフトウェアを示しています。

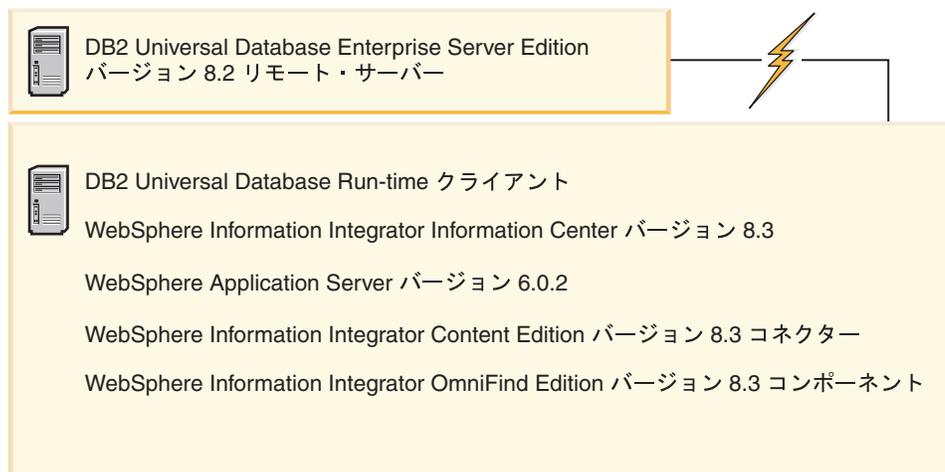


図 1. リモート・サーバーに DB2 Universal Database をインストールするシングル・サーバー構成におけるソフトウェア・コンポーネント

関連概念

27 ページの『第 9 章 マルチサーバー・インストールの概要』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 4 つの分散サーバーにインストールすることができます。

関連タスク

39 ページの『第 10 章 AIX、Linux、Solaris におけるリモート・サーバーでの DB2 Universal Database のセットアップ』

リモート DB2 データベースに接続する場合は、DB2 Universal Database がインストールされているリモート・サーバーにデータベースおよびユーザー表を作成する必要があります。クローラー・コンポーネントおよび DB2 Universal Database が別のコンピューターにインストールされている場合は、この構成を行う必要があります。

41 ページの『第 11 章 Windows におけるリモート・サーバーでの DB2 Universal Database のセットアップ』

リモート DB2 データベースに接続する場合は、DB2 Universal Database がインストールされているリモート・サーバーにデータベースおよびユーザー表を作成する必要があります。クローラー・コンポーネントおよび DB2 Universal Database が別のコンピューターにインストールされている場合は、この構成を行う必要があります。

WebSphere II OmniFind Edition のシングル・サーバー・インストール

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール・ランチパッドを使用して、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 1 つのサーバーにインストールします。

始める前に

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールする前に、ご使用のオペレーティング・システムが、サポートされている正しいレベルであるか確認します。

手順

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をシングル・サーバーにインストールするには、次のようにします。

1. WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・ランチパッドを開始します。

AIX root ユーザーとしてログインして、次のように入力します。

```
. /install-aix.bin
```

Linux root ユーザーとしてログインして、次のように入力します。

```
. /install-linux.bin
```

Solaris root ユーザーとしてログインして、次のように入力します。

```
. /install-solaris.bin
```

Windows

管理者権限を持つユーザーとしてログインします。install-win32.exe ファイルをダブルクリックするか、または次のように入力します。

```
install-win32.exe
```

2. インストール・ランチパッドで、「製品のインストール」をクリックします。
3. プロンプトが表示されたら、「シングル・サーバー」を選択します。
4. エンタープライズ・サーチ管理者ユーザー ID を入力します。本書の例では、esadmin を使用しています。パスワードを入力します。新規ユーザー名およびパスワードの場合は、「新規ユーザー ID とパスワードの作成」チェック・ボックスを選択します。
5. 前提ソフトウェアに関するプロンプトに対応します。前提ソフトウェアがインストールされていない場合、インストール・プログラムは、CD を挿入するか、またはインストール実行可能ファイルが入っているディレクトリを指定するように指示するプロンプトを出します。
6. 「サマリー」ウィンドウで、構成を確認し、「次へ」をクリックします。
7. ウィンドウにインストールの正常終了が表示されたら、「完了」をクリックします。ファースト・ステップ・プログラムを開始できます。ファースト・ステップを使用して、インストールの検証、エンタープライズ・サーチの開始、資料の検討を行うことができます。
8. インフォメーション・センターをインストールしている場合は、インフォメーション・センターを開始して、エンタープライズ・サーチの資料にアクセスしてください。

関連概念

13 ページの『第 3 章 インストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリー』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、インストール・プログラムは、インストール・ディレクトリー、データ・ディレクトリー、表スペース・ディレクトリーを作成します。

15 ページの『第 4 章 エンタープライズ・サーチ管理者ユーザー ID とパスワード』

エンタープライズ・サーチのユーザー ID とパスワードは、オペレーティング・システム上で有効なものでなければなりません。また、DB2 Universal Database にアクセスして構成する権限が必要です。

関連資料

1 ページの『第 1 章 必要なソフトウェアとサポートされるデータ・ソース』
WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールする前に、必要なソフトウェア、ハードウェア、サポートされるオペレーティング・システム、およびデータ・ソースに必要なソフトウェアがあるか確認してください。

第 9 章 マルチサーバー・インストールの概要

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 4 つの分散サーバーにインストールすることができます。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・プログラムは、以下の製品を手動でインストールする場合や WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールする前に以下の製品がインストールされている場合を除いて、以下の前提ソフトウェアをインストールします。

- IBM DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.3
- IBM DB2 Run-time Client バージョン 8.2
- IBM WebSphere Application Server バージョン 6.0.2

WebSphere Application Server を手動でインストールする場合、WebSphere Application Server ベース、IBM HTTP Server、および WebSphere Application Server プラグイン・コンポーネントをインストールする必要があります。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・プログラムは、これら 3 つをすべて自動的にインストールします。

- WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3 コネクタ
- IBM WebSphere Information Integrator Information Center バージョン 8.3

その他すべての前提ソフトウェアは手動でインストールする必要があります。

WebSphere Application Server のフィックスパックをインストールする必要があります。インストール・プログラムでは、これらのフィックスパックはインストールされません。

必要なソフトウェアに関する情報は、1 ページの『第 1 章 必要なソフトウェアとサポートされるデータ・ソース』を参照するか、または docs/locale ディレクトリーにある iiysr.htm または iiysr.txt というファイルを開いてください。

マルチサーバー構成の場合は、クローラー・コンポーネントを 1 つのサーバーに、索引コンポーネントを 1 つのサーバーに、検索コンポーネントを 2 つのサーバーにインストールします。

以下の図は、マルチサーバー構成における 4 つのサーバーとそれらのコンポーネントを示しています。

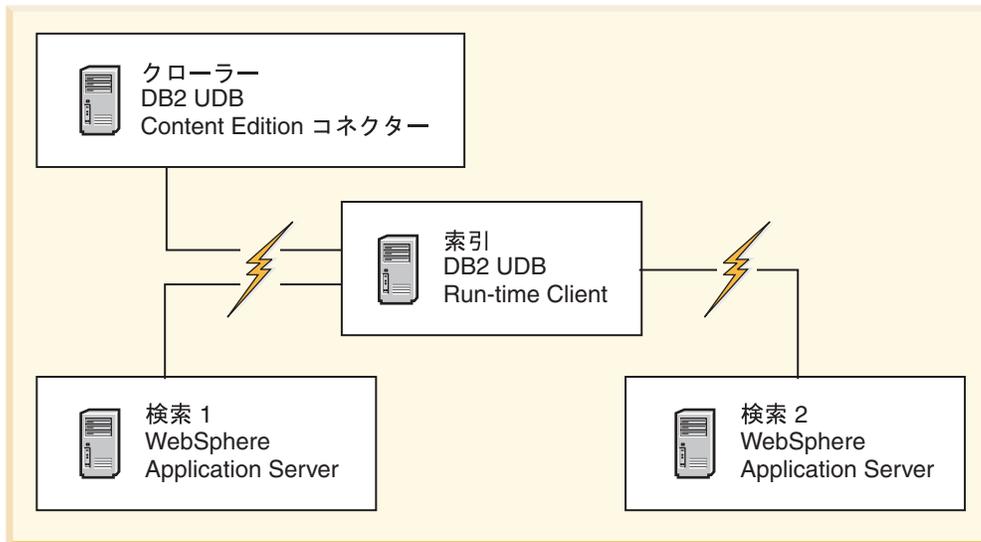


図 2. 4 つのエンタープライズ・サーチ・サーバーとそれらのソフトウェア・コンポーネント

以下の図は、リモート・サーバーに DB2 Universal Database をインストールする場合のマルチサーバーにおける 4 つのサーバーとそのコンポーネントを示しています。

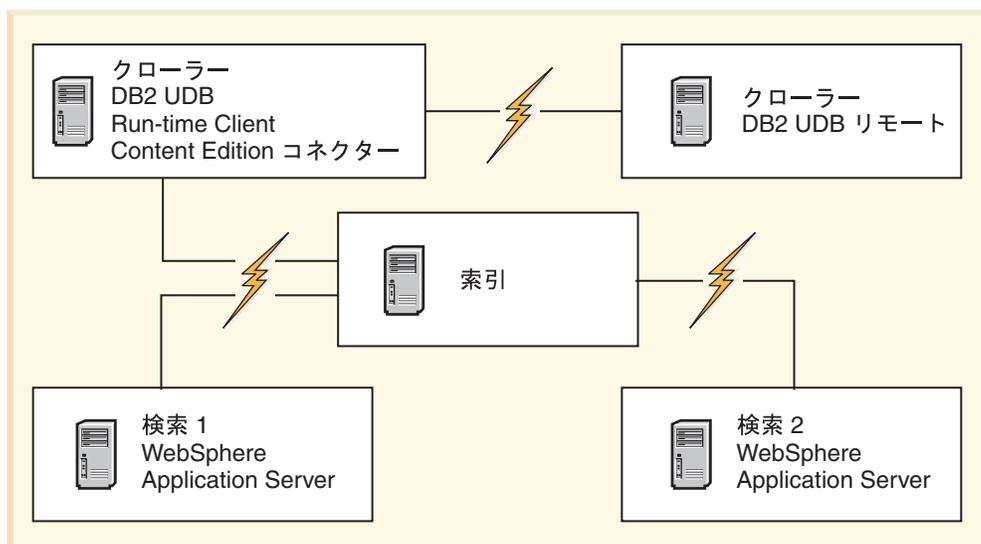


図 3. リモート・サーバーに DB2 Universal Database をインストールする場合の 4 つのエンタープライズ・サーチ・サーバーとそのソフトウェア・コンポーネント

エンタープライズ・サーチ・システムの各サーバーは、コンポーネント名により参照されます。例えば、クローラー・コンポーネントがサーバーにインストールされている場合、そのサーバーはクローラー・サーバーと呼ばれます。

索引サーバーは、マルチサーバー構成では、コントロール・サーバーとしての役割を果たします。索引コンポーネントのインストール時には他のサーバーのホスト名やポートが必要になるので、索引サーバーを最後にインストールします。すべてのサーバーがインストールされるまで、システム・サービスを開始できません。

以下の順序で、エンタープライズ・サーチ・サーバーをインストールおよび構成します。

1.

クローラー・サーバー

- DB2 Universal Database Enterprise Server Edition バージョン 8.2
- WebSphere Information Integrator Content Edition コネクタ
- WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のクローラー・コンポーネント
- オプション: クローラーに固有のセットアップ・スクリプト

2.

検索サーバー 1

- WebSphere Application Server Network Deployment バージョン 5.1.1 またはバージョン 5.1.1.3、あるいは WebSphere Application Server バージョン 6.0.2
- IBM HTTP Server
- WebSphere Application Server プラグイン・コンポーネント
- WebSphere Information Integrator OmniFind Edition の検索コンポーネント
- オプション: WebSphere Information Integrator Information Center

3.

検索サーバー 2

- WebSphere Application Server Network Deployment バージョン 5.1.1 またはバージョン 5.1.1.3、あるいは WebSphere Application Server バージョン 6.0.2
- IBM HTTP Server
- WebSphere Application Server プラグイン・コンポーネント
- WebSphere Information Integrator OmniFind Edition の検索コンポーネント
- オプション: WebSphere Information Integrator Information Center

4.

索引サーバー

- DB2 Run-time Client バージョン 8.2
- WebSphere Information Integrator OmniFind Edition の索引コンポーネント

5 つのサーバーにインストールすることもできます。5 番目のサーバーは DB2 Universal Database をホストすることができます。この場合、クローラー・サーバーに DB2 Run-time Client をインストールする必要があります。

インフォメーション・センターを検索サーバーにインストールしない場合は、「ヘルプ」をクリックすると、ブラウザが開き、IBM Web サイトのヘルプ・トピックを見ることができます。

ご使用のシステムに、すべてまたは一部の前提ソフトウェアがすでにインストールされている場合は、前提ソフトウェアが適切なエンタープライズ・サーチ・サーバーにインストールされているか確認してください。WebSphere Application Server のリモート・インスタンスへの接続はサポートされません。DB2 Universal Database のリモート・インスタンスへの接続はサポートされます。

インストールする各コンポーネントごとに、エンタープライズ・サーチ管理者の新規のユーザー名とパスワードを作成するか、または既存のユーザー名とパスワードを使用します。各サーバーで同じユーザー名とパスワードを指定しなければなりません。

サーバーごとに指定する情報の一部を記録する必要があります。インストール情報フォームを使用して、情報を記録してください。

関連概念

23 ページの『第 8 章 シングル・サーバー・インストールの概要』

シングル・サーバー・インストールの場合は、すべての前提ソフトウェアと WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 1 つのサーバーにインストールします。

13 ページの『第 3 章 インストール・ディレクトリーとデータ・ディレクトリー』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、インストール・プログラムは、インストール・ディレクトリー、データ・ディレクトリー、表スペース・ディレクトリーを作成します。

15 ページの『第 4 章 エンタープライズ・サーチ管理者ユーザー ID とパスワード』

エンタープライズ・サーチのユーザー ID とパスワードは、オペレーティング・システム上で有効なものでなければなりません。また、DB2 Universal Database にアクセスして構成する権限が必要です。

関連タスク

31 ページの『クローラー・コンポーネントのインストール』

マルチサーバー構成の場合、クローラー・コンポーネントを DB2 Universal Database と同じサーバーにインストールするか、または、DB2 Universal Database をリモート・サーバーに手動でインストールする必要があります。

33 ページの『検索コンポーネントのインストール』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition の検索コンポーネントを WebSphere Application Server (Web アプリケーション・サーバーおよび IBM HTTP Server) と同じサーバーにインストールします。両方の製品が 2 つのサーバーにインストールされます。

35 ページの『索引コンポーネントのインストール』

リモートの DB2 Universal Database サーバーに接続していない場合は、DB2 Run-time Client と同じサーバーに索引コンポーネントをインストールします。その場合、DB2 Run-time Client は、クローラー・サーバーにインストールされます。

39 ページの『第 10 章 AIX、Linux、Solaris におけるリモート・サーバーでの DB2 Universal Database のセットアップ』

リモート DB2 データベースに接続する場合は、DB2 Universal Database がインストールされているリモート・サーバーにデータベースおよびユーザー表を作

成する必要があります。クローラー・コンポーネントおよび DB2 Universal Database が別のコンピューターにインストールされている場合は、この構成を行う必要があります。

41 ページの『第 11 章 Windows におけるリモート・サーバーでの DB2 Universal Database のセットアップ』

リモート DB2 データベースに接続する場合は、DB2 Universal Database がインストールされているリモート・サーバーにデータベースおよびユーザー表を作成する必要があります。クローラー・コンポーネントおよび DB2 Universal Database が別のコンピューターにインストールされている場合は、この構成を行う必要があります。

関連資料

1 ページの『第 1 章 必要なソフトウェアとサポートされるデータ・ソース』
WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールする前に、必要なソフトウェア、ハードウェア、サポートされるオペレーティング・システム、およびデータ・ソースに必要なソフトウェアがあるか確認してください。

クローラー・コンポーネントのインストール

マルチサーバー構成の場合、クローラー・コンポーネントを DB2 Universal Database と同じサーバーにインストールするか、または、DB2 Universal Database をリモート・サーバーに手動でインストールする必要があります。

インストール中に表示されるプロンプトは、ご使用のシステムの現行構成により異なります。

始める前に

別のサーバーにある DB2 Universal Database に接続したい場合は、DB2 Universal Database が稼動していることを確認してください。

インストール情報フォームを使用して、ディレクトリー名、ホスト名などを記録します。この情報は、索引サーバーをインストールする際に必要になります。

手順

クローラー・コンポーネントをインストールするには、次のようにします。

1. クローラー・サーバーで、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・ランチパッドを開始します。

AIX root ユーザーとしてログインし、`./install-aix.bin` と入力します。

Linux root ユーザーとしてログインし、`./install-linux.bin` と入力します。

Solaris root ユーザーとしてログインし、`./install-solaris.bin` と入力します。

Windows

管理者権限を持っている必要があります。ファイル `install-win32.exe` をダブルクリックするか、または `install-win32.exe` と入力します。

2. インストール・ランチパッドで、「製品のインストール」をクリックします。
3. プロンプトが表示されたら、「マルチサーバー」を選択します。

4. 「クローラー・サーバー」チェック・ボックスを選択します。必要に応じて、他の選択をすべてクリアします。
5. 該当するフィールドに以下の情報を指定します。システム構成によっては、インストール時に、これ以外のプロンプトが表示されることがあります。

エンタープライズ・サーチ管理者ユーザー ID およびパスワード。

この管理者ユーザー ID とパスワードは、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。

インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーの絶対パス。

データ・ディレクトリー・パスを記録します。この情報は、索引サーバーをインストールする際に必要になります。

クローラー・サーバーのホスト名およびポート。

ホスト名およびポートを記録します。この情報は、索引サーバーをインストールする際に必要になります。

6. DB2 Universal Database の情報を指定します。

オプション	説明
DB2 Universal Database が未インストール:	WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・プログラムは、DB2 Universal Database インストール・ファイルまたはインストール CD のパスを指定するように指示するプロンプトを出します。
DB2 Universal Database がリモート・サーバーにインストール済み:	DB2 Universal Database リモート・サーバーにアクセスするには、クローラー・サーバーに DB2 ランタイム・クライアントをインストールする必要があります。インストール・プログラムは、ユーザーに DB2 Universal Database リモート・クライアント情報を指定するように指示するプロンプトを出します。また、ユーザーは、DB2 Universal Database がインストールされているリモート・サーバーで 2 つのスクリプトをコピーして実行する必要があります。

7. 設定を確認したら、「次へ」をクリックして、インストールを開始します。
8. ウィンドウにインストールの正常終了が表示されたら、「完了」をクリックします。コントローラー・サーバーでファースト・ステップ・プログラムを開始できます。ファースト・ステップを使用して、インストールの検証、エンタープライズ・サーチの開始、資料の検討を行うことができます。

関連概念

27 ページの『第 9 章 マルチサーバー・インストールの概要』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 4 つの分散サーバーにインストールすることができます。

関連タスク

33 ページの『検索コンポーネントのインストール』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition の検索コンポーネントを

WebSphere Application Server (Web アプリケーション・サーバーおよび IBM HTTP Server) と同じサーバーにインストールします。両方の製品が 2 つのサーバーにインストールされます。

35 ページの『索引コンポーネントのインストール』

リモートの DB2 Universal Database サーバーに接続していない場合は、DB2 Run-time Client と同じサーバーに索引コンポーネントをインストールします。その場合、DB2 Run-time Client は、クローラー・サーバーにインストールされます。

39 ページの『第 10 章 AIX、Linux、Solaris におけるリモート・サーバーでの DB2 Universal Database のセットアップ』

リモート DB2 データベースに接続する場合は、DB2 Universal Database がインストールされているリモート・サーバーにデータベースおよびユーザー表を作成する必要があります。クローラー・コンポーネントおよび DB2 Universal Database が別のコンピューターにインストールされている場合は、この構成を行う必要があります。

41 ページの『第 11 章 Windows におけるリモート・サーバーでの DB2 Universal Database のセットアップ』

リモート DB2 データベースに接続する場合は、DB2 Universal Database がインストールされているリモート・サーバーにデータベースおよびユーザー表を作成する必要があります。クローラー・コンポーネントおよび DB2 Universal Database が別のコンピューターにインストールされている場合は、この構成を行う必要があります。

関連資料

63 ページの『第 22 章 インストール情報フォーム』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、以下のフォームを使用して、各サーバーの情報を記録できます。

検索コンポーネントのインストール

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition の検索コンポーネントを WebSphere Application Server (Web アプリケーション・サーバーおよび IBM HTTP Server) と同じサーバーにインストールします。両方の製品が 2 つのサーバーにインストールされます。

インストール中に表示されるプロンプトは、ご使用のシステムの現行構成により異なります。

始める前に

インストール情報フォームを使用して、ディレクトリー名、ホスト名などを記録します。この情報は、索引サーバーをインストールする際に必要になります。

手順

検索コンポーネントをインストールするには、次のようにします。

1. WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・ランチパッドを開始します。

AIX root ユーザーとしてログインし、`./install-aix.bin` と入力します。

Linux root ユーザーとしてログインし、`./install-linux.bin` と入力します。

Solaris root ユーザーとしてログインし、`./install-solaris.bin` と入力します。

Windows

管理者権限を持つユーザーとしてログインします。ファイル `install-win32.exe` をダブルクリックするか、または `install-win32.exe` と入力します。

2. インストール・ランチパッドで、「製品のインストール」をクリックします。
3. プロンプトが表示されたら、「マルチサーバー」を選択します。
4. 「検索サーバー」チェック・ボックスを選択します。必要に応じて、他の選択をすべてクリアします。
5. 該当するフィールドに以下の情報を指定します。システム構成によっては、インストール時に、これ以外のプロンプトが表示されることがあります。

エンタープライズ・サーチ管理者ユーザー ID およびパスワード。

この管理者ユーザー ID とパスワードは、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。

インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーの絶対パス。

データ・ディレクトリー・パスを記録します。この情報は、索引サーバーをインストールする際に必要になります。

検索サーバーのホスト名およびポート。

ホスト名およびポートを記録します。この情報は、索引サーバーをインストールする際に必要になります。

HTTP サーバーのポート。

ポートを記録します。この情報は、索引サーバーをインストールする際に必要になります。

6. WebSphere Application Server をインストールするか、または既存のインストールを使用します。WebSphere Application Server がインストールされていない場合、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・プログラムは、WebSphere Application Server のインストール・ファイルまたは CD のパスを指定するように指示するプロンプトを出します。
 7. 設定を検査します。設定を確認したら、「次へ」をクリックして、インストールを開始します。
 8. ウィンドウにインストールの正常終了が表示されたら、「完了」をクリックします。ファースト・ステップ・プログラムを開始できます。ファースト・ステップを使用して、インストールの検証、エンタープライズ・サーチの開始、資料の検討を行うことができます。
 9. インフォメーション・センターをインストールしている場合は、インフォメーション・センターを開始して、エンタープライズ・サーチの資料にアクセスしてください。
- 2 番目の検索サーバーについても、この手順を繰り返してください。

関連概念

27 ページの『第 9 章 マルチサーバー・インストールの概要』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 4 つの分散サーバーにインストールすることができます。

関連タスク

31 ページの『クローラー・コンポーネントのインストール』

マルチサーバー構成の場合、クローラー・コンポーネントを DB2 Universal Database と同じサーバーにインストールするか、または、DB2 Universal Database をリモート・サーバーに手動でインストールする必要があります。

『索引コンポーネントのインストール』

リモートの DB2 Universal Database サーバーに接続していない場合は、DB2 Run-time Client と同じサーバーに索引コンポーネントをインストールします。その場合、DB2 Run-time Client は、クローラー・サーバーにインストールされます。

45 ページの『第 13 章 AIX、Linux、Solaris での WebSphere Application Server 6.0 リフレッシュパック 2 のインストール』

WebSphere Application Server バージョン 6.0 をインストールしている場合は、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition バージョン 8.3 を使用する前に、WebSphere Application Server リフレッシュパック 2 をインストールする必要があります。

47 ページの『第 14 章 Windows での WebSphere Application Server 6.0 リフレッシュパック 2 のインストール』

WebSphere Application Server バージョン 6.0 をインストールしている場合は、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition バージョン 8.3 を使用する前に、WebSphere Application Server リフレッシュパック 2 をインストールする必要があります。

49 ページの『第 15 章 WebSphere Application Server Network Deployment バージョン 5.1.1 のフィックスパックのインストール』

エンタープライズ・サーチは、WebSphere Application Server Network Deployment バージョン 5.1.1 およびバージョン 5.1.1.3 をサポートしています。エンタープライズ・サーチを WebSphere Application Server Network Deployment バージョン 5.1.1.3 と共にインストールする場合は、追加のフィックスパックをインストールする必要があります。

関連資料

63 ページの『第 22 章 インストール情報フォーム』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、以下のフォームを使用して、各サーバーの情報を記録できます。

索引コンポーネントのインストール

リモートの DB2 Universal Database サーバーに接続していない場合は、DB2 Run-time Client と同じサーバーに索引コンポーネントをインストールします。その場合、DB2 Run-time Client は、クローラー・サーバーにインストールされます。

索引コンポーネントをインストールする際に、クローラー・サーバー、検索サーバー、索引サーバー、およびこれらの前提ソフトウェアに関する情報を指定する必要があります。クローラー・コンポーネントおよび検索コンポーネントをインストールする前にインストール情報フォームに記録した情報を使用します。

手順

索引コンポーネントをインストールするには、次のようにします。

1. WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・ランチパッドを開始します。

AIX root ユーザーとしてログインし、`./install-aix.bin` と入力します。

Linux root ユーザーとしてログインし、`./install-linux.bin` と入力します。

Solaris root ユーザーとしてログインし、`./install-solaris.bin` と入力します。

Windows

管理者権限を持つユーザーとしてログインします。ファイル `install-win32.exe` をダブルクリックするか、または `install-win32.exe` と入力します。

2. インストール・ランチパッドで、「**製品のインストール**」をクリックします。
3. プロンプトが表示されたら、「**マルチサーバー**」を選択します。
4. 「**索引サーバー**」チェック・ボックスを選択します。必要に応じて、他の選択をすべてクリアします。
5. 該当するフィールドに以下の情報を指定します。システム構成によっては、インストール時に、これ以外のプロンプトが表示されることがあります。
 - エンタープライズ・サーチ管理者ユーザー ID およびパスワード。この管理者ユーザー ID とパスワードは、すべてのエンタープライズ・サーチ・サーバーで同じでなければなりません。
 - インストール・ディレクトリーおよびデータ・ディレクトリーの絶対パス。
 - クローラー・サーバーのホスト名およびポート。
 - クローラー・サーバーのデータ・ディレクトリー。
 - 検索サーバーのホスト名およびポート。
 - 各検索サーバーのデータ・ディレクトリー。
 - 各検索サーバーの HTTP サーバー・ポート。
 - 索引サーバーのホスト名およびポート。
 - リモート・ポート、データベース名、ローカル・データベース名、ローカル・ノード名 (デフォルト・ノード名は `esnode`)、およびクローラー・サーバーに DB2 Universal Database をインストールした際に使用した DB2 インスタンス名。DB2 Run-time Client がクローラー・サーバー上の DB2 サーバー・データベースに接続するために、インストール・プログラムは、データベースに関連した DB2 サーバー名を登録またはカタログします。
6. DB2 Run-time Client の情報を指定します。DB2 Run-time Client がインストールされていない場合、インストール・プログラムは、DB2 Run-time Client インストール・ファイルまたは CD のパスを指定するように指示するプロンプトを出します。
7. 設定を確認したら、「**次へ**」をクリックして、インストールを開始します。

8. ウィンドウにインストールの正常終了が表示されたら、「完了」をクリックします。ファースト・ステップ・プログラムを開始できます。ファースト・ステップを使用して、インストールの検証、エンタープライズ・サーチの開始、資料の検討を行うことができます。

関連概念

27 ページの『第 9 章 マルチサーバー・インストールの概要』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 4 つの分散サーバーにインストールすることができます。

関連タスク

33 ページの『検索コンポーネントのインストール』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition の検索コンポーネントを WebSphere Application Server (Web アプリケーション・サーバーおよび IBM HTTP Server) と同じサーバーにインストールします。両方の製品が 2 つのサーバーにインストールされます。

31 ページの『クローラー・コンポーネントのインストール』

マルチサーバー構成の場合、クローラー・コンポーネントを DB2 Universal Database と同じサーバーにインストールするか、または、DB2 Universal Database をリモート・サーバーに手動でインストールする必要があります。

51 ページの『第 16 章 ファースト・ステップ・プログラムの開始』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール後、ファースト・ステップ・プログラムを使用して、インストールの検証、文書のオープン、エンタープライズ・サーチ・システムの始動を行うことができます。ファースト・ステップは、インストール・プログラムの最後のウィンドウでチェック・ボックスを選択して開始するか、またはコマンドを実行して開始することができます。

関連資料

63 ページの『第 22 章 インストール情報フォーム』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、以下のフォームを使用して、各サーバーの情報を記録できます。

第 10 章 AIX、Linux、Solaris におけるリモート・サーバーでの DB2 Universal Database のセットアップ

リモート DB2 データベースに接続する場合は、DB2 Universal Database がインストールされているリモート・サーバーにデータベースおよびユーザー表を作成する必要があります。クローラー・コンポーネントおよび DB2 Universal Database が別のコンピューターにインストールされている場合は、この構成を行う必要があります。

このタスクについて

リモート・サーバーにインストールされている DB2 Universal Database にアクセスするには、DB2 Run-time Client バージョン 8.2 を、索引サーバーとクローラー・サーバーの両方にインストールする必要があります。

手順

リモートの DB2 Universal Database を構成するには、次のようにします。

1. エンタープライズ・サーチ管理者と同じユーザー ID およびパスワードを使用して、リモート DB2 Universal Database サーバー上に新規ユーザーを作成します。
2. その新規ユーザーを DB2 グループに追加します。通常、デフォルトの DB2 グループは db2grp1 です。
3. この新規ユーザーについてのパスを追加して、.profile または .bash_profile ファイルを変更します。例えば、DB2 インスタンス・ユーザー ID のホーム・ディレクトリーが /home/db2inst1/sqllib/db2profile である場合、次のパスを追加します。

```
. /home/db2inst1/sqllib/db2profile
```

4. 以下のファイルを ES_INSTALL_ROOT/bin ディレクトリーから、リモート・サーバー上の DB2 Universal Database をインストールしたディレクトリーにコピーします。

- db2config1.ddl
- db2CreateUserTable.ddl

5. このデータベースのために、以下のサブディレクトリーを持つ TABLESPACE ディレクトリーを作成します。

- TABLESPACE/tsp32k
- TABLESPACE/tsp4k
- TABLESPACE/tmp

例えば、/home/ofuser1 ディレクトリーの下に、以下のサブディレクトリーを持つ TABLESPACE ディレクトリーを作成します。

```
/home/ofuser1/crawl/tsp32k  
/home/ofuser1/crawl/tsp4k  
/home/ofuser1/crawl/tmp
```

6. 上記のディレクトリーに DB2 インスタンスがアクセスできることを確認します。DB2 インスタンスは、*TABLESPACE* ディレクトリーおよびそのすべてのサブディレクトリーに対する読み取り、書き込み、実行許可を必要とします。
7. db2config1.ddl ファイルを編集して、データベース名および *TABLESPACE* ディレクトリーを置き換えます。
 - a. デフォルト・データベース名 *fountain* をユーザーが選択したデータベース名に置き換えます。
 - b. /home/esadmin/crawl/tsp32k ディレクトリーを *TABLESPACE/tsp32k* ディレクトリーに置き換えます。
 - c. /home/esadmin/crawl/tsp4k ディレクトリーを *TABLESPACE/tsp4k* ディレクトリーに置き換えます。
 - d. /home/esadmin/crawl/tmp ディレクトリーを *TABLESPACE/tmp* ディレクトリーに置き換えます。
8. db2config1.ddl コマンドを実行して、エンタープライズ・サーチ・データベースを作成します。

```
db2 -tvf db2config1.ddl
```
9. データベース名 *fountain* をユーザーがステップ 7a で選択したデータベース名に置き換えて、db2CreateUserTable.ddl コマンドを編集します。
10. db2CreateUserTable.ddl コマンドを実行して、エンタープライズ・サーチ・データベース内にユーザー表を作成します。

```
db2 -tvf db2CreateUserTable.ddl
```

関連概念

27 ページの『第 9 章 マルチサーバー・インストールの概要』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 4 つの分散サーバーにインストールすることができます。

23 ページの『第 8 章 シングル・サーバー・インストールの概要』

シングル・サーバー・インストールの場合は、すべての前提ソフトウェアと WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 1 つのサーバーにインストールします。

関連タスク

31 ページの『クローラー・コンポーネントのインストール』

マルチサーバー構成の場合、クローラー・コンポーネントを DB2 Universal Database と同じサーバーにインストールするか、または、DB2 Universal Database をリモート・サーバーに手動でインストールする必要があります。

第 11 章 Windows におけるリモート・サーバーでの DB2 Universal Database のセットアップ

リモート DB2 データベースに接続する場合は、DB2 Universal Database がインストールされているリモート・サーバーにデータベースおよびユーザー表を作成する必要があります。クローラー・コンポーネントおよび DB2 Universal Database が別のコンピューターにインストールされている場合は、この構成を行う必要があります。

このタスクについて

リモート・サーバーにインストールされている DB2 Universal Database にアクセスするには、DB2 Run-time Client バージョン 8.2 を、索引サーバーとクローラー・サーバーの両方にインストールする必要があります。

手順

リモートの DB2 Universal Database を構成するには、次のようにします。

1. DOS コマンド・ウィンドウで、db2cmd と入力します。DB2 コマンド・ウィンドウが開き、DB2 コマンド行環境が初期化されます。すべてのコマンドをこの DB2 コマンド・ウィンドウから実行する必要があります。
2. エンタープライズ・サーチ管理者と同じユーザー ID およびパスワードを使用して、リモート DB2 Universal Database サーバー上に新規ユーザーを作成します。
3. エンタープライズ・サーチ管理者ユーザーが Windows 管理者グループのメンバーであることを確認します。
4. Windows 「スタート」 → 「設定」 → 「コントロール パネル」 → 「管理ツール」 → 「ローカル セキュリティ ポリシー」 → 「ローカル ポリシー」 → 「ユーザー権利の割り当て」 を選択し、エンタープライズ・サーチ管理者ユーザーに以下のユーザー権限を割り当てます。
 - オペレーティング システムの一部として機能
 - トークン オブジェクトの作成
 - メモリ内のページのロック
 - サービスとしてログオン
 - プロセス レベル トークンの置き換え
5. Windows コンピューターからログオフします。
6. エンタープライズ・サーチ管理者ユーザーとしてログオンします。
7. 以下のファイルを、Windows インストール済み環境の ES_INSTALL_ROOT¥bin ディレクトリーから、リモート・サーバー上の DB2 Universal Database をインストールしたディレクトリーにコピーします。
 - db2config1.ddl
 - db2CreateUserTable.ddl

8. このデータベースのために、以下のサブディレクトリーを持つ *TABLESPACE* ディレクトリーを作成します。

- *TABLESPACE*¥tsp32k
- *TABLESPACE*¥tsp4k
- *TABLESPACE*¥tmp

例えば、C:¥ofuser1 ディレクトリーの下に、以下のサブディレクトリーを持つ *TABLESPACE* ディレクトリーを作成します。

```
C:¥ofuser1¥crawl¥tsp32k
C:¥ofuser1¥crawl¥tsp4k
C:¥ofuser1¥crawl¥tmp
```

TABLESPACE ディレクトリーが、エンタープライズ・サーチ・コレクションのクローラ済みデータを保管するのに十分な容量のあるファイル・システムに作成されるようにしてください。

9. *TABLESPACE* ディレクトリーおよびそのサブディレクトリーに DB2 インスタンスがアクセスできることを確認します。DB2 インスタンスは、*TABLESPACE* ディレクトリーおよびそのすべてのサブディレクトリーに対する読み取り、書き込み、実行許可を必要とします。
10. db2config1.ddl ファイルを編集して、データベース名および *TABLESPACE* ディレクトリーを置き換えます。
- デフォルト・データベース名 *fountain* をユーザーが選択したデータベース名に置き換えます。
 - NODE_ROOT*¥crawl¥tsp32k ディレクトリーを *TABLESPACE*¥tsp32k ディレクトリーに置き換えます。*NODE_ROOT* は、エンタープライズ・サーチ・インストール・ノードであり、ここからファイルがコピーされます。
 - NODE_ROOT*¥crawl¥tsp4k ディレクトリーを *TABLESPACE*¥tsp4k ディレクトリーに置き換えます。
 - NODE_ROOT*¥crawl¥tmp ディレクトリーを *TABLESPACE*¥tmp ディレクトリーに置き換えます。
11. db2config1.ddl コマンドを実行して、エンタープライズ・サーチ・データベースを作成します。

```
db2 -tvf db2config1.ddl
```

関連概念

27 ページの『第 9 章 マルチサーバー・インストールの概要』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 4 つの分散サーバーにインストールすることができます。

23 ページの『第 8 章 シングル・サーバー・インストールの概要』

シングル・サーバー・インストールの場合は、すべての前提ソフトウェアと WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を 1 つのサーバーにインストールします。

関連タスク

31 ページの『クローラー・コンポーネントのインストール』

マルチサーバー構成の場合、クローラー・コンポーネントを DB2 Universal Database と同じサーバーにインストールするか、または、DB2 Universal Database をリモート・サーバーに手動でインストールする必要があります。

第 12 章 WebSphere Information Integrator Content Edition のインストール

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3 がまだインストールされていないと、インストーラー・プログラムは、WebSphere Information Integrator Content Edition コネクタを自動的にインストールします。

シングル・サーバー・インストールの場合、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストーラー・プログラムは、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition がインストールされているコンピューターにコンテンツ統合サーバーがない場合、WebSphere Information Integrator Content Edition バージョン 8.3 コネクタを自動的にインストールします。マルチサーバー・インストールの場合、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストーラー・プログラムは、クローラー・サーバーがインストールされているコンピューターにコンテンツ統合サーバーがない場合、WebSphere Information Integrator Content Edition コネクタをインストールします。

コネクタのみのインストールでは、コンテンツ統合サーバーは直接モードで稼働し、特定の機能しか提供しませんが、コンテンツ統合サーバーを WebSphere Application Server にデプロイするオーバーヘッドはなくなります。

関連概念

WebSphere II Content Edition リポジトリへのサーバー・モード・アクセス

関連タスク

UNIX での WebSphere II Content Edition 用クローラー・サーバーの構成

Windows での WebSphere II Content Edition 用クローラー・サーバーの構成

WebSphere II Content Edition リポジトリへの直接モード・アクセス

第 13 章 AIX、Linux、Solaris での WebSphere Application Server 6.0 リフレッシュパック 2 のインストール

WebSphere Application Server バージョン 6.0 をインストールしている場合は、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition バージョン 8.3 を使用する前に、WebSphere Application Server リフレッシュパック 2 をインストールする必要があります。

始める前に

WebSphere Application Server バージョン 6.0 ソフトウェアが、ご使用のシステムにインストールされていることを確認してください。このソフトウェアには、アプリケーション・サーバーおよび HTTP サーバーが含まれています。

IBM WebSphere Application Server バージョン 6.0 リフレッシュパック 2 に関する前提条件、リリース情報、README をお読みください。

WebSphere Application Server バージョン 6.0 構成およびプロファイルをバックアップしてください。

このタスクについて

マルチサーバー・インストールの場合は、WebSphere Application Server バージョン 6.0 リフレッシュパック 2 を両方の検索サーバーにインストールしてください。

本書において、`WAS_HOME` は、WebSphere Application Server インストール・ディレクトリを表しています。

手順

WebSphere Application Server 6.0 リフレッシュパック 2 をインストールするには、次のようにします。

1. `WAS_HOME` ディレクトリから `updateinstaller` ディレクトリを除去します (ある場合)。
2. root ユーザーとしてシステムにログインします。
3. WebSphere Application Server 6.0 リフレッシュパック 2 CD を挿入してマウントします。
4. リフレッシュパックを `WAS_HOME` ディレクトリに抽出します。 `WAS_HOME` の下に新しい `updateinstaller` ディレクトリが作成されます。
5. `WAS_HOME/bin` ディレクトリで以下のコマンドを実行します。

```
./setupCmdLine.sh
```
6. `WAS_HOME/updateinstaller` ディレクトリで `update` コマンドを実行して、インストールを開始します。
7. プロンプトに従ってインストールを完了します。

関連タスク

| 47 ページの『第 14 章 Windows での WebSphere Application Server 6.0 リフレ
| ッシュパック 2 のインストール』

| WebSphere Application Server バージョン 6.0 をインストールしている場合は、
| WebSphere Information Integrator OmniFind Edition バージョン 8.3 を使用する前
| に、WebSphere Application Server リフレッシュパック 2 をインストールする必
| 要があります。

| 33 ページの『検索コンポーネントのインストール』

| WebSphere Information Integrator OmniFind Edition の検索コンポーネントを
| WebSphere Application Server (Web アプリケーション・サーバーおよび IBM
| HTTP Server) と同じサーバーにインストールします。両方の製品が 2 つのサー
| ーバーにインストールされます。

第 14 章 Windows での WebSphere Application Server 6.0 リフレッシュパック 2 のインストール

WebSphere Application Server バージョン 6.0 をインストールしている場合は、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition バージョン 8.3 を使用する前に、WebSphere Application Server リフレッシュパック 2 をインストールする必要があります。

始める前に

WebSphere Application Server バージョン 6.0 ソフトウェアが、ご使用のシステムにインストールされていることを確認してください。このソフトウェアには、アプリケーション・サーバーおよび HTTP サーバーが含まれています。

IBM WebSphere Application Server バージョン 6.0 リフレッシュパック 2 に関する前提条件、リリース情報、README をお読みください。

WebSphere Application Server バージョン 6.0 構成およびプロファイルをバックアップしてください。

このタスクについて

マルチサーバー・インストールの場合は、WebSphere Application Server 6.0.2 リフレッシュパックを両方の検索サーバーにインストールしてください。

本書において、`WAS_HOME` は、WebSphere Application Server インストール・ディレクトリーを表しています。

手順

WebSphere Application Server 6.0 リフレッシュパック 2 CD をインストールするには、次のようにします。

1. `WAS_HOME` ディレクトリーから `updateinstaller` ディレクトリーを除去します (ある場合)。
2. 管理者としてシステムにログインします。
3. WebSphere Application Server 6.0 リフレッシュパック 2 CD をドライブに挿入します。
4. リフレッシュパックを `WAS_HOME` に解凍します。 `WAS_HOME` の下に `updateinstaller` ディレクトリーが作成されます。
5. `WAS_HOME/bin` ディレクトリーで以下のコマンドを実行します。
`setupCmdLine.bat`
6. `WAS_HOME/updateinstaller` ディレクトリーで `update` コマンドを実行して、インストールを開始します。
7. プロンプトに従ってインストールを完了します。

関連タスク

| 45 ページの『第 13 章 AIX、Linux、Solaris での WebSphere Application Server
| 6.0 リフレッシュパック 2 のインストール』

| WebSphere Application Server バージョン 6.0 をインストールしている場合は、
| WebSphere Information Integrator OmniFind Edition バージョン 8.3 を使用する前
| に、WebSphere Application Server リフレッシュパック 2 をインストールする必
| 要があります。

| 33 ページの『検索コンポーネントのインストール』

| WebSphere Information Integrator OmniFind Edition の検索コンポーネントを
| WebSphere Application Server (Web アプリケーション・サーバーおよび IBM
| HTTP Server) と同じサーバーにインストールします。両方の製品が 2 つのサー
| ーバーにインストールされます。

第 15 章 WebSphere Application Server Network Deployment バージョン 5.1.1 のフィックスパックのインストール

エンタープライズ・サーチは、WebSphere Application Server Network Deployment バージョン 5.1.1 およびバージョン 5.1.1.3 をサポートしています。エンタープライズ・サーチを WebSphere Application Server Network Deployment バージョン 5.1.1.3 と共にインストールする場合は、追加のフィックスパックをインストールする必要があります。

このタスクについて

WebSphere Application Server フィックスパックには、更新、問題の修正、およびプログラム診断依頼書 (APAR) に基づく更新が含まれています。APAR は、IBM での内部テスト中に検出された問題です。各フィックスパックには、同じバージョンの WebSphere Application Server に対して前回のフィックスパック以降に行われたすべての更新が含まれています。

始める前に

WebSphere Application Server Network Deployment バージョン 5.1.1 ソフトウェアが、ご使用のシステムにインストールされていることを確認してください。このソフトウェアには、アプリケーション・サーバー、HTTP サーバー、および Deployment Manager が含まれています。インストールを開始する前に、フィックスパックに関する前提条件、リリース情報、README ファイルをお読みください。

手順

WebSphere Application Server フィックスパックを入手するには、WebSphere Application Server サポート Web サイト www.ibm.com/software/webservers/appserv/was/support/ にアクセスしてください。

Web サイトの説明に従って、フィックスパックをインストールしてください。

関連タスク

33 ページの『検索コンポーネントのインストール』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition の検索コンポーネントを WebSphere Application Server (Web アプリケーション・サーバーおよび IBM HTTP Server) と同じサーバーにインストールします。両方の製品が 2 つのサーバーにインストールされます。

第 16 章 ファースト・ステップ・プログラムの開始

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール後、ファースト・ステップ・プログラムを使用して、インストールの検証、文書のオープン、エンタープライズ・サーチ・システムの始動を行うことができます。ファースト・ステップは、インストール・プログラムの最後のウィンドウでチェック・ボックスを選択して開始するか、またはコマンドを実行して開始することができます。

手順

AIX、Linux、または Solaris でファースト・ステップを開始するには、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインし、以下を入力します。

```
export DISPLAY=display_server_host_name:0.0  
  
firststep.sh
```

Windows でファースト・ステップを開始するには、「スタート」メニューで「ファースト・ステップ」ショートカットをクリックするか、または `ES_INSTALL_ROOT` ディレクトリーにある実行可能ファイル `firststeps.bat` をダブルクリックします。

関連タスク

55 ページの『第 18 章 Windows でのエンタープライズ・サーチの開始』

Windows に WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールした後、インストール・プログラムは、ユーザーに代わって前提ソフトウェアを開始するか、またはソフトウェア・コンポーネントをバックグラウンド・サービスとして開始します。これらのコンポーネントが開始されない (またはサービスが実行されていない) 場合は、手動で開始することができます。

53 ページの『第 17 章 AIX、Linux、Solaris でのエンタープライズ・サーチの開始』

AIX、Linux、または Solaris システムに WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールした後、インストール・プログラムは、ユーザーに代わって前提ソフトウェアを開始します。ただし、これらのソフトウェア・コンポーネントが開始されない場合は、コマンドを入力して開始することができます。

35 ページの『索引コンポーネントのインストール』

リモートの DB2 Universal Database サーバーに接続していない場合は、DB2 Run-time Client と同じサーバーに索引コンポーネントをインストールします。その場合、DB2 Run-time Client は、クローラー・サーバーにインストールされます。

第 17 章 AIX、Linux、Solaris でのエンタープライズ・サーチの開始

AIX、Linux、または Solaris システムに WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールした後、インストール・プログラムは、ユーザーに代わって前提ソフトウェアを開始します。ただし、これらのソフトウェア・コンポーネントが開始されない場合は、コマンドを入力して開始することができます。

このタスクについて

エンタープライズ・サーチを開始する前に、DB2 Universal Database、HTTP Server、および WebSphere Application Server が稼働中であることを確認してください。

手順

前提ソフトウェアまたは WebSphere Information Integrator OmniFind Edition が稼働していない場合は、次のステップに従ってください。

1. クローラー・サーバーで、DB2 Universal Database を開始します。DB2 Universal Database がリモート・サーバーにインストールされている場合は、DB2 Universal Database をリモート・サーバーから開始してください。
 - a. DB2 インスタンスとしてログインします。
 - b. 次のコマンドを入力します: db2start
2. 両方の検索サーバーで、WebSphere Application Server または WebSphere Application Server Network Deployment を開始します。

オプション	説明
WebSphere Application Server Network Deployment を開始する場合:	<ol style="list-style-type: none">1. root ユーザーとしてログインします。2. ディレクトリーを /opt/WebSphere/DeploymentManager/bin に変更します。3. ./startManager.sh と入力します。4. ディレクトリーを /opt/WebSphere/AppServer/bin に変更します。5. 以下を入力します。 ./startNode.sh ./startServer.sh <i>servername</i> <i>servername</i> はデフォルトの WebSphere Application Server の名前です。

オプション	説明
WebSphere Application Server を開始する場合:	<ol style="list-style-type: none"> 1. root ユーザーとしてログインします。 2. ディレクトリーを /opt/WebSphere/AppServer/bin に変更します。 3. 以下を入力します。 ./startServer.sh <i>servername</i> <i>servername</i> はデフォルトの WebSphere Application Server の名前です。

3. 次のように入力して、エンタープライズ・サーチ・アプリケーションを開始します: ./startServer.sh ESSearchServer
4. 索引サーバーで、エンタープライズ・サーチ管理者としてログインし、コマンド `esadmin start` を入力してエンタープライズ・サーチを開始します。
5. ブラウザーを開き、URL `http://hostname/ESAdmin` を入力して、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを開始します。 *hostname* は、検索サーバーのいずれかのホスト名です。
6. エンタープライズ・サーチ管理者ユーザーとして、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインします。

これでエンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用できるようになりました。管理コンソールの使用についての詳細は、オンライン・ヘルプを参照してください。この資料を表示するには、インフォメーション・センターを開始するか、またはディレクトリー `ES_INSTALL_ROOT/docs/en_US/pdf` を表示して、ファイル `iiysa.pdf` を開きます。

関連概念

15 ページの『第 4 章 エンタープライズ・サーチ管理者ユーザー ID とパスワード』

エンタープライズ・サーチのユーザー ID とパスワードは、オペレーティング・システム上で有効なものでなければなりません。また、DB2 Universal Database にアクセスして構成する権限が必要です。

関連タスク

51 ページの『第 16 章 ファースト・ステップ・プログラムの開始』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール後、ファースト・ステップ・プログラムを使用して、インストールの検証、文書のオープン、エンタープライズ・サーチ・システムの始動を行うことができます。ファースト・ステップは、インストール・プログラムの最後のウィンドウでチェック・ボックスを選択して開始するか、またはコマンドを実行して開始することができます。

55 ページの『第 18 章 Windows でのエンタープライズ・サーチの開始』

Windows に WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールした後、インストール・プログラムは、ユーザーに代わって前提ソフトウェアを開始するか、またはソフトウェア・コンポーネントをバックグラウンド・サービスとして開始します。これらのコンポーネントが開始されない (またはサービスが実行されていない) 場合は、手動で開始することができます。

第 18 章 Windows でのエンタープライズ・サーチの開始

Windows に WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールした後、インストール・プログラムは、ユーザーに代わって前提ソフトウェアを開始するか、またはソフトウェア・コンポーネントをバックグラウンド・サービスとして開始します。これらのコンポーネントが開始されない (またはサービスが実行されていない) 場合は、手動で開始することができます。

このタスクについて

エンタープライズ・サーチを開始する前に、DB2 Universal Database、HTTP Server、および WebSphere Application Server が稼働している必要があります。

エンタープライズ・サーチ管理コンソールを使用して検索コレクションを作成する前に、いずれかのプロセスがバックグラウンド・サービスとしてまだ稼働していない場合、またはファースト・ステップ・プログラムでいずれかのプロセスを開始していない場合は、それらのプロセスを開始する必要があります。これらのプロセスが稼働していない場合は、コマンド行から開始することができます。

始める前に

これらのコンポーネントを開始するには、管理者権限が必要です。

手順

前提ソフトウェアまたは WebSphere Information Integrator OmniFind Edition が稼働していない場合は、次のステップに従ってエンタープライズ・サーチを開始してください。

1. WebSphere Application Server または WebSphere Application Server Network Deployment がまだ稼働していない場合は、開始します。

オプション	説明
WebSphere Application Server Network Deployment を開始する場合:	<ol style="list-style-type: none">1. 管理者権限を持つユーザーとしてログインします。2. ディレクトリーを /WebSphere/DeploymentManager/bin に変更します。3. startManager.bat と入力します。4. ディレクトリーを WebSphere/AppServer/bin に変更します。5. 以下を入力します。 startNode.bat startServer.bat <i>servername</i> <i>servername</i> はデフォルトの WebSphere Application Server の名前です。

オプション	説明
WebSphere Application Server を開始する場合:	<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理者権限を持つユーザーとしてログインします。 2. ディレクトリーを WebSphere/AppServer/bin に変更します。 3. 以下を入力します。 <pre>startServer.bat servername</pre> <i>servername</i> はデフォルトの WebSphere Application Server の名前です。

2. エンタープライズ・サーチ・アプリケーションがまだ稼働していない場合は、開始します。 コマンド行で以下を入力します。

```
startServer ESSearchServer
```

3. 索引サーバーにエンタープライズ・サーチ管理者としてログインし、コマンド `esadmin start` を入力してエンタープライズ・サーチを開始します。
4. ブラウザーを開き、URL `http://hostname/ESAdmin` を入力して、エンタープライズ・サーチ管理コンソールを開始します。

hostname は、検索サーバーのいずれかのホスト名です。

5. エンタープライズ・サーチ管理者ユーザーとして、エンタープライズ・サーチ管理コンソールにログインします。

関連概念

15 ページの『第 4 章 エンタープライズ・サーチ管理者ユーザー ID とパスワード』

エンタープライズ・サーチのユーザー ID とパスワードは、オペレーティング・システム上で有効なものでなければなりません。また、DB2 Universal Database にアクセスして構成する権限が必要です。

関連タスク

51 ページの『第 16 章 ファースト・ステップ・プログラムの開始』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール後、ファースト・ステップ・プログラムを使用して、インストールの検証、文書のオープン、エンタープライズ・サーチ・システムの始動を行うことができます。ファースト・ステップは、インストール・プログラムの最後のウィンドウでチェック・ボックスを選択して開始するか、またはコマンドを実行して開始することができます。

53 ページの『第 17 章 AIX、Linux、Solaris でのエンタープライズ・サーチの開始』

AIX、Linux、または Solaris システムに WebSphere Information Integrator OmniFind Edition をインストールした後、インストール・プログラムは、ユーザーに代わって前提ソフトウェアを開始します。ただし、これらのソフトウェア・コンポーネントが開始されない場合は、コマンドを入力して開始することができます。

第 19 章 インフォメーション・センターの開始と停止

WebSphere Information Integrator インフォメーション・センターには、エンタープライズ・サーチおよびコンテンツ統合サーバーに関する資料が含まれています。

オンライン・ヘルプを使用する前に、インフォメーション・センターを開始する必要があります。以下に、インフォメーション・センターの開始手順を示します。

手順

インフォメーション・センターを開始するには、次のようにします。

Windows

コマンド行で、以下のコマンドを入力します。

```
C:%Program Files%IBM%WebSphereIIInformationCenter%ibm_help%IC_start.bat
```

AIX、Linux、Solaris

コマンド行で、以下のコマンドを入力します。

```
/opt/IBM/WebSphereIIInformationCenter/IC_start.sh
```

インフォメーション・センターを停止するには、次のようにします。

Windows

コマンド行で、以下のコマンドを入力します。

```
C:%Program Files%IBM%WebSphereIIInformationCenter%ibm_help%IC_stop.bat
```

AIX、Linux、Solaris

コマンド行で、以下のコマンドを入力します。

```
/opt/IBM/WebSphereIIInformationCenter/IC_stop.sh
```

関連概念

21 ページの『第 7 章 インフォメーション・センターのインストールの概要』エンタープライズ・サーチおよびコンテンツ統合サーバーの資料は、IBM Web サイトまたはご使用のコンピューターでご覧になることができます。

関連資料

エンタープライズ・サーチの資料

第 20 章 AIX、Linux、Solaris システムからの WebSphere II OmniFind Edition の除去

除去プログラムは、WebSphere Application Server の Web アプリケーションおよび DB2 Universal Database の表を含む WebSphere Information Integrator OmniFind Edition コンポーネントを除去します。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition は、グラフィック・モード、テキスト・モード、サイレント・モードで除去することができます。

サイレント・モードでは、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を除去する各サーバーで応答ファイルを使用します。例えば、以下のようなコマンドを実行します。

```
. /uninstall.bin -silent -options response_file_name
```

手順

グラフィック・アンインストール・プログラムを使用して WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を除去するには、次のようにします。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. *ES_INSTALL_ROOT* インストール・ディレクトリーで、ディレクトリーを *_uninst* ディレクトリーに変更します。
3. `./uninstall.bin` と入力します。
4. アンインストール・プログラムを開始したら、「次へ」をクリックして、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を除去します。
5. オプション: エンタープライズ・サーチ・データを除去する場合は、「すべてのデータおよび構成ファイルを除去」オプションを選択します。このオプションを選択すると、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のすべてのデータ、システム構成ファイル、およびエンタープライズ・サーチ・データベースがクローラー・サーバーから除去されます。
6. オプション: エンタープライズ・サーチ管理者ユーザー ID を削除します。
7. WebSphere Information Integrator OmniFind Edition がインストールされている各サーバーで、ステップ 1-6 を繰り返します。

関連タスク

61 ページの『第 21 章 Windows システムからの WebSphere II OmniFind Edition の除去』

除去プログラムは、WebSphere Application Server の Web アプリケーションおよび DB2 Universal Database の表を含む WebSphere Information Integrator OmniFind Edition コンポーネントを除去します。

第 21 章 Windows システムからの WebSphere II OmniFind Edition の除去

除去プログラムは、WebSphere Application Server の Web アプリケーションおよび DB2 Universal Database の表を含む WebSphere Information Integrator OmniFind Edition コンポーネントを除去します。

Windows 上の WebSphere Information Integrator OmniFind Edition は、「プログラムの追加と削除」機能または WebSphere Information Integrator OmniFind Edition 除去プログラムを使用して除去することができます。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition は、グラフィック・モード (最も一般的です)、テキスト・モード、サイレント・モードで除去することができます。

サイレント・モードでは、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を除去する各サーバーで応答ファイルを使用します。例えば、以下のようなコマンドを実行します。

```
uninstall.exe -silent -options response_file_name
```

手順

グラフィック・アンインストール・プログラムを使用して WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を除去するには、次のようにします。

1. *ES_INSTALL_ROOT* インストール・ディレクトリー内の *_uninst* ディレクトリーを表示するか、またはこのディレクトリーに変更します。
2. ファイル *uninstall.exe* をダブルクリックするか、または *uninstall.exe* と入力します。
3. アンインストール・プログラムを開始したら、「次へ」をクリックして、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition を除去します。
4. オプション: エンタープライズ・サーチ・データを除去する場合は、「すべてのデータおよび構成ファイルを除去」オプションを選択します。このオプションを選択すると、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のすべてのデータ、システム構成ファイル、およびエンタープライズ・サーチ・データベースがクローラー・サーバーから除去されます。
5. WebSphere Information Integrator OmniFind Edition がインストールされている各サーバーで、ステップ 1-4 を繰り返します。

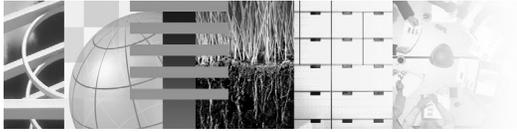
関連タスク

59 ページの『第 20 章 AIX、Linux、Solaris システムからの WebSphere II OmniFind Edition の除去』

除去プログラムは、WebSphere Application Server の Web アプリケーションおよび DB2 Universal Database の表を含む WebSphere Information Integrator OmniFind Edition コンポーネントを除去します。

第 22 章 インストール情報フォーム

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition のインストール時に、以下のフォームを使用して、各サーバーの情報を記録できます。



マルチサーバー・インストール・チェックリスト: インストール情報フォーム

このフォームを使用して、各サーバーごとに情報を記録してください。この情報は、索引サーバーをインストールする際に必要になります。すべてのサーバーに、同じエンタープライズ・サーチ・ユーザー ID およびパスワードを使用してください。また、インストール・ディレクトリーはすべてのサーバーで同じでなければなりません。

インストール・ディレクトリー: _____

クローラー・サーバー

- ホスト名: _____
- ポート: _____
- データ・ディレクトリー: _____
- リモート・ポート (DB2 UDB 接続ポート): _____
- DB2 database name: _____
- DB2 instance name: _____

検索サーバー 1

- ホスト名: _____
- ポート: _____
- データ・ディレクトリー: _____
- HTTP Server ポート: _____

検索サーバー 2

- ホスト名: _____
- ポート: _____
- データ・ディレクトリー: _____
- HTTP Server ポート: _____

索引サーバー

- ホスト名: _____
- ポート: _____
- データ・ディレクトリー: _____

リモート・サーバーに **DB2 UDB** をインストールしている場合は、以下の情報を記録してください。
DB2 UDB リモート・サーバー:

- ホスト名: _____ ■ データ・ディレクトリー: _____
- ポート: _____ ■ HTTP Server ポート: _____

図 4. インストール情報フォーム

関連タスク

33 ページの『検索コンポーネントのインストール』

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition の検索コンポーネントを WebSphere Application Server (Web アプリケーション・サーバーおよび IBM HTTP Server) と同じサーバーにインストールします。両方の製品が 2 つのサーバーにインストールされます。

35 ページの『索引コンポーネントのインストール』

リモートの DB2 Universal Database サーバーに接続していない場合は、DB2 Run-time Client と同じサーバーに索引コンポーネントをインストールします。その場合、DB2 Run-time Client は、クローラー・サーバーにインストールされます。

31 ページの『クローラー・コンポーネントのインストール』

マルチサーバー構成の場合、クローラー・コンポーネントを DB2 Universal Database と同じサーバーにインストールするか、または、DB2 Universal Database をリモート・サーバーに手動でインストールする必要があります。

エンタープライズ・サーチの資料

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition の資料は、PDF または HTML で読むことができます。

WebSphere Information Integrator OmniFind Edition インストール・プログラムは、「インフォメーション・センター」を自動的にインストールします。インストール・プログラムは検索サーバーに「インフォメーション・センター」をインストールします。マルチサーバー・インストールの場合、「インフォメーション・センター」は、両方の検索サーバーにインストールされます。「インフォメーション・センター」をインストールしていない場合、「ヘルプ」をクリックすると、IBM Web サイトの「インフォメーション・センター」が開きます。エンタープライズ・サーチの「HTML トピック」を参照するには、「インフォメーション・センター」を開始します。

PDF 資料を参照するには、docs/locale/pdf に移動します。例えば、英語で資料を見つけるには、docs/en_US/pdf に移動します。PDF 資料、ダウンロード、フィックス、技術情報、およびインフォメーション・センターを、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition サポート・サイトで表示できます。

以下のテーブルは、使用可能な資料、ファイル名、ロケーションを示します。

表 1. エンタープライズ・サーチ用 PDF 資料

ヘッダー	ヘッダー	ヘッダー
エンタープライズ・サーチのインストール・ガイド (この文書のトピックは、「インフォメーション・センター」でも使用可能です。)	iiysi.pdf	docs/locale/pdf/
エンタープライズ・サーチの管理 (この文書のトピックは、「インフォメーション・センター」でも使用可能です。)	iiysa.pdf	docs/locale/pdf/
エンタープライズ・サーチプログラミング・ガイドおよび API リファレンス (この文書のトピックは、「インフォメーション・センター」でも使用可能です。)	iiysp.pdf	docs/locale/pdf/
メッセージ・リファレンス (この文書のトピックは、「インフォメーション・センター」でも使用可能です。)	iiysm.pdf	docs/locale/pdf/

表 1. エンタープライズ・サーチ用 PDF 資料 (続き)

ヘッダー	ヘッダー	ヘッダー
エンタープライズ・サーチのインストール要件 (この文書のトピックは、「インフォメーション・センター」でも使用可能です。)	iiysr.txt または iiysr.htm	docs/locale/ (このファイルは、「ファースト・ステップ」プログラムから起動することも可能です。)
リリース情報	iiysn.pdf	IBM WebSphere Information Integrator OmniFind Edition 資料 の Web サイトでのみ入手可能です。
テキスト分析機能ガイド	iiyst.pdf	docs/locale/pdf/

WebSphere Information Integration に関する情報の入手

WebSphere Information Integration 製品に関する情報は、Web で入手できます。

WebSphere Information Integration に関する情報は、Web の www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/ にあります。このサイトには、次の最新情報が入っています。

- 製品資料
- 製品ダウンロード
- フィックスパック
- リリース情報とその他のサポート文書
- WebSphere Information Integration に関する新情報
- ホワイト・ペーパーや IBM Redbooks™ などの Web リソースへのリンク
- ニュースグループやユーザー・グループへのリンク
- WebSphere Information Integration 製品のオンライン・インフォメーション・センターへのリンク
- 資料の注文方法

製品資料を入手するには、以下のようにします。

1. Web の www.ibm.com/software/data/integration/db2ii/ にアクセスします。
2. ドロップダウン・リストから製品 (例えば、WebSphere Information Integrator OmniFind Edition) を選択します。
3. ページ左側の「Support」リンクをクリックします。
4. 「Learn」セクションで必要なリンクを選択します。選択した製品のインフォメーション・センターがある場合は、インフォメーション・センターのリンクを選択できます。70 ページの図 5 の例を参照してください。

Learn

- **Product documentation and manuals** (2 items)
- **Redbooks** (1 item)
- **V8.2 Documentation and release notes**

Information Center

Provides fast, online centralized access to product information.

- [1.0](#)

図 5. WebSphere Information Integration Support Web サイトにおける製品資料へのリンクの例

IBM と連絡を取る

お客様の国または地域で IBM に連絡する方法については、Web の www.ibm.com/planetwide にある「IBM Directory of Worldwide Contacts」にアクセスしてください。

商標

ここでは、IBM の商標と、特定の IBM 以外の商標をリストします。

IBM の商標について詳しくは、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> を参照してください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Intel、Intel Inside (ロゴ)、および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物には、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

Outside In (®) Viewer Technology, ©1992-2004 Stellent, Chicago, IL., Inc. All Rights Reserved.

IBM XSLT Processor Licensed Materials - Property of IBM ©Copyright IBM Corp., 1999-2004. All Rights Reserved.

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

- インストール 21, 45, 47
 - クローラー・コンポーネント 31
 - 検索コンポーネント 33
 - 索引コンポーネント 35
 - シングル・サーバー 23, 24
 - マルチサーバー 27
- Network Deployment (ND) フィックスパック 49
- WebSphere Application Server フィックスパック 49
- WebSphere Information Integrator Content Edition 43
- インストール概要
 - シングル・サーバー 23
 - マルチサーバー 27
- インストール順序
 - 前提ソフトウェア 23, 27
- インストール方法 17
 - グラフィック 17
 - サイレント 17
 - テキスト・モード 17
- インストール・ディレクトリー 13
- インフォメーション・センター 21
- エンタープライズ・サーチ
 - リモート・サーバーでの DB2 Universal Database のセットアップ 39, 41
- エンタープライズ・サーチ管理者パスワード 15
- エンタープライズ・サーチ管理者ユーザー ID 15
- エンタープライズ・サーチ資料の 検索 67
- エンタープライズ・サーチのインストール・ディレクトリー 13
- エンタープライズ・サーチのデータ・ディレクトリー 13
- オペレーティング・システムの準備
 - AIX 11
 - Red Hat Linux 11

[カ行]

- 管理者パスワード, エンタープライズ・サーチ用 15
- 管理者ユーザー ID, エンタープライズ・サーチ用 15
- グラフィック・インストール 17
- クローラー・コンポーネントインストール 31
- クローラー・サーバー 31
- 検索コンポーネント 33
- 検索サーバー 33
- コンソール・インストール 17

[サ行]

- サイレント・インストール 17
- 索引コンポーネント 35
- 索引サーバー 35
- サポートされるオペレーティング・システム 1
- 除去 59, 61
 - UNIX ベースのオペレーティング・システム上の WebSphere II OmniFind Edition 59
 - Windows 上の WebSphere II OmniFind Edition 61
- 資料 67
- シングル・サーバー・インストール 24
- シングル・サーバー・インストールの概要 23
- 前提ソフトウェア 1
 - インストールの順序 23, 27
- ソフトウェア要件 1

[タ行]

- データ・ディレクトリー 13
- ディスク・スペース所要量 8
- テキスト・モード・インストール 17

[ハ行]

- ハードウェア要件 8
- ファースト・ステップ 51
 - 開始 51
- 方法
 - インストール 17

[マ行]

- マルチサーバー・インストールの概要 27

D

- DB2 Universal Database
 - リモート・サーバー用のセットアップ 39, 41

L

- Linux および AIX 上の Deployment Manager
 - 開始 53
- Linux および AIX 上の HTTP サーバー
 - 開始 53
- Linux および AIX 上の WebSphere Application Server
 - 開始 53
- Linux および AIX 上の WebSphere Application Server Network Deployment
 - 開始 53
- Linux および AIX 上のアプリケーション・サーバー
 - 開始 53
- Linux および AIX 上のエンタープライズ・サーチ
 - 開始 53
- Linux のディスク区画 11

N

- Network Deployment (ND) フィックスパック
 - インストール 49

P

- PDF 資料 67
- profile.env ファイル 11

U

- UNIX ベースのオペレーティング・システム上の WebSphere II OmniFind Edition
 - 除去 59

W

- WebSphere Application Server フィックス
バック
 - インストール 49
- WebSphere Application Server リフレッシュ
ユパック 6.0.2 45, 47
 - インストール 45, 47
- WebSphere Information Integrator Content
Edition
 - 直接モード操作 43
 - デフォルト・インストール 43
- WebSphere Information Integrator インフォ
メーション・センター
 - インストール 21
 - 開始 57
- WebSphere Information Integrator インフォ
メーション・センターのインストール
21
- WebSphere Information Integrator インフォ
メーション・センターの開始 57
- Windows 上の HTTP サーバー
 - 開始 55
- Windows 上の WebSphere Application
Server
 - 開始 55
- Windows 上の WebSphere II OmniFind
Edition
 - 除去 61
- Windows 上のアプリケーション・サーバ
ー
 - 開始 55
- Windows 上のエンタープライズ・サー
チ・システム
 - 開始 55



Printed in Japan



GD88-6373-02



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12